

**平成29年度
3年次学生用教授要目**

目次

進級条件	135
------------	-----

教授要目

講義・演習

総合教育

英文論文講読	140
--------------	-----

基礎薬学(化学系)

分子構造解析学	142
有機反応化学Ⅲ	143
薬品資源学	144
有機化学演習Ⅱ	145
医薬品分子設計学	146
分子医薬化学	148
合成戦略論	149
医薬品開発概論	150
臨床分析化学	152
構造解析演習	153

基礎薬学(生物系)

生体情報制御学	154
病原微生物学	155
分子免疫学	157
遺伝子工学	158
中毒学概論	160
環境衛生学	161
生物統計学	163
細胞情報学	165
最新生命科学概論	167

医療薬学

薬理学Ⅲ	169
薬理学Ⅳ	171
薬理学Ⅴ	173
薬物動態学Ⅰ	175
薬物動態学Ⅱ	177
製剤工学概論	178
製剤学	179
疾病と治療Ⅰ	181
疾病と治療Ⅱ	182
薬品毒性学	183
非臨床試験概論	184
薬物管理概論	185

実習

実習

分子生物学系実習	188
薬理学系実習	190
インターンシップ	191

進級条件

I. 3年次生（平成27年度入学生）対象進級条件

学 則 第9条第2項
履修規程 第16条第2項第3号

(3) 3年次では次の条件をすべて満たすこと。

- ア 3年次における実習の科目を除く必修科目の未修得単位が4単位以内であること。ただし、前年次における欠単位は、当年次欠単位に含め4単位以内であること。
- イ 2年次までの全ての必修科目及び総合科目中の卒業要件である選択必修科目を修得すること。
- ウ 3年次における実習の科目をすべて修得すること。

附 則（平成27年4月1日）

1. この規程は、平成27年4月1日から施行する。
ただし、平成27年3月31日に在籍している者には、入学時の規程を適用する。

II. 3年次生（平成24年度～平成26年度入学生）対象進級条件

学 則 第9条第2項
履修規程 第14条
第14条

1. 進級には各学年において、その年次における実習の科目を除く必修科目の欠単位が4単位以内でなくてはならない。ただし、前年次における欠単位は当年次欠単位に含め4単位以内でなくてはならない。
2. 生命薬科学科の3年次で最終試験終了時において2年次までの単位をすべて修得していない場合は4年次に進級することができない。
3. 薬学科の学生は4年次から5年次へ進級する際には4年次までの必修科目をすべて修得しなければならない。
4. 実習の不合格者は原則として進級することができない。

附 則（平成21年4月1日）

1. この規程は、平成21年4月1日から施行する。
ただし、平成21年3月31日に在籍している者には、入学時の規程を適用する。

講義・演習

英文論文講読

3年次 前期 必修 1単位

担当者 中川 哲人 (所属: 生体膜情報学教室)、黒田 喜幸 (所属: 生体膜情報学教室)
宮坂 智充 (所属: 病態生理学教室)、立田 岳生 (所属: 分子認識学教室)
加藤 創 (所属: 臨床分析化学教室)、山崎 寛之 (所属: 天然物化学教室)
斎藤 有香子 (所属: 分子薬化学教室)

一般目標 (GIO)

研究を行う上で必要となる英文資料 (学術論文や書籍、WWW 状の情報) を読解し、活用できる。

到達目標 (SBOs)

1. 自然科学に関する英文の読み方・調べ方を修得する。
2. 自然科学論文の一般的な英文構造に慣れる。
3. 自然科学論文に頻出する英単語・構文を憶える。
4. 英文論文を読解し内容を説明できる。
5. 英文論文の基本構成を理解する。

授業形態

質疑応答、講義

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	中川 哲人	基礎知識	講義方法の説明、英文読解の方法、論文内容を理解する上で必要な基礎知識	1
第2回	中川 哲人	英語論文講読	課題論文1の読解と解説	2, 3, 4, 5
第3回	黒田 喜幸	英語論文講読	課題論文2の読解と解説	2, 3, 4, 5
第4回	黒田 喜幸	英語論文講読	課題論文2の読解と解説	2, 3, 4, 5
第5回	宮坂 智充	英語論文講読	課題論文3の読解と解説	2, 3, 4, 5
第6回	宮坂 智充	英語論文講読	課題論文3の読解と解説	2, 3, 4, 5
第7回	立田 岳生	英語論文講読	課題論文4の読解と解説	2, 3, 4, 5
第8回	立田 岳生	英語論文講読	課題論文4の読解と解説	2, 3, 4, 5
第9回	加藤 創	英語論文講読	課題論文5の読解と解説	2, 3, 4, 5
第10回	加藤 創	英語論文講読	課題論文5の読解と解説	2, 3, 4, 5
第11回	山崎 寛之	英語論文講読	課題論文6の読解と解説	2, 3, 4, 5
第12回	山崎 寛之	英語論文講読	課題論文6の読解と解説	2, 3, 4, 5
第13回	斎藤 有香子	英語論文講読	課題論文7の読解と解説	2, 3, 4, 5
第14回	斎藤 有香子	英語論文講読	課題論文7の読解と解説	2, 3, 4, 5
第15回			まとめ	

成績評価方法

質疑応答 (50%) と課題 (50%)

教科書

プリントを配布する。

参考書

英和・和英辞典、ライフサイエンス辞書プロジェクト

準備学習(予習)・復習

論文で用いられる基本的な英文は決まった形のものが多いので、そこを押さえれば論文英語はかなり読みやすくなります。我々教員の中にも英語を苦手としていた (いる?) 人は多いですが、今ではみんな英語論文 (だけ?) は読むことができます。英語に苦手意識を持っている人でもどうにかかりますので、頑張りましょう!

【準備学習】 あらかじめ論文を配布して次回講義でのおおよその進捗範囲を指示します。指示範囲の英文を読解し日本語に訳してください。また、読解した後内容について、関連した授業の資料や図書館などを利用して調べて下さい。講義の理解に直結しますので予習には1時間程度は時間をかけて下さい。内容理解に必要な前提知識は適宜講義します。

【復習】 自分の日本語訳と示された例訳を比較して間違いや改善点を挙げ、次の日本語訳の参考にしてください。先を読み進めるために有用ですので、解説された内容に関連した授業等を復習して理解を深めて下さい。頻出する単語や構文については別途ノート等にまとめて活用しましょう。30分程度は時間を確保して下さい。

オフィスアワー

中川 哲人	生体膜情報学教室 (ウェリタス5階)	月曜日	午後4時20分～6時
黒田 喜幸	微生物学教室 (ウェリタス8階)	月曜日	午後4時20分～6時
宮坂 智充	病態生理学教室 (ウェリタス7階)	月曜日	午後4時～5時
立田 岳生	分子認識学教室 (ウェリタス5階)	火曜日	午後4時～5時
加藤 創	臨床分析学教室 (ウェリタス9階)	月～金曜日	午後3時～5時30分
山崎 寛之	天然物化学教室 (ウェリタス6階)	月曜日	午後3時～5時
斎藤 有香子	分子薬科学教室 (ウェリタス10階)	火曜日	午後3時30分～5時

分子構造解析学

3年次 前期 必修 1単位

担当者 町田 浩一（所属：薬学教育センター）

一般目標 (GIO)

基本的な有機化合物の構造解析ができるようになるために、代表的な機器分析法 [核磁気共鳴 (NMR) スペクトル、赤外吸収 (IR) スペクトル、質量スペクトル (MS) 等] の基本的知識およびデータ解析のための基本的技能を習得する。

到達目標 (SBOs)

1. 構造解析に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。
2. 赤外吸収 (IR) およびラマンスペクトルの原理と測定法を説明できる。
3. IR スペクトルの特性吸収を列挙し、帰属することができる。
4. 核磁気共鳴 (NMR) スペクトルの原理と測定法を説明できる。
5. NMR スペクトルの化学シフトに影響を及ぼす構造的要因を説明できる。
6. ^1H -NMR スペクトルのスピンスピン結合の原因と分裂様式を説明できる。
7. ^1H -NMR スペクトルのスピンスピン結合定数から得られる情報を説明できる。
8. ^{13}C -NMR スペクトルより得られる情報を説明できる。
9. 代表的な化合物の部分構造を ^1H -, ^{13}C -NMR スペクトルから決定できる。
10. 質量スペクトル (MS) の原理、測定法およびピークの種類について説明できる。
11. MS のイオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。
12. MS の代表的なフラグメンテーションについて説明できる。
13. 旋光度、旋光分散、円二色性の概略を説明できる。
14. 代表的な機器分析法を用いて、基本的な有機化合物の構造解析ができる。

授業形態

授業用に作成したプリントを中心に、教科書を参考にして講義を進めていく。

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	町田 浩一	機器分析法の概略	構造解析法の分類	1
第2回	町田 浩一	赤外吸収 (IR) スペクトル	分子振動、赤外活性、ラマン活性、測定法	2
第3回	町田 浩一	赤外吸収 (IR) スペクトル	特性吸収帯、官能基と吸収帯、分子構造と IR スペクトル	3
第4回	町田 浩一	核磁気共鳴 (NMR) スペクトル	NMR 現象の概要、測定法、共鳴周波数、シグナル面積強度、重水素置換	4
第5回	町田 浩一	核磁気共鳴 (NMR) スペクトル	化学シフトに影響を及ぼす構造的要因	5
第6回	町田 浩一	核磁気共鳴 (NMR) スペクトル	等価、スピンスピン結合、スピンスピン結合定数	6, 7
第7回	町田 浩一	核磁気共鳴 (NMR) スペクトル	^{13}C -NMR、分子構造と NMR スペクトル	8, 9
第8回	町田 浩一	核磁気共鳴 (NMR) スペクトル	分子構造と NMR スペクトル	9
第9回	町田 浩一	質量スペクトル (MS)	MS の概要、イオンピークの種類	10
第10回	町田 浩一	質量スペクトル (MS)	イオン化法、質量分析部	11
第11回	町田 浩一	質量スペクトル (MS)	フラグメンテーション、分子構造と MS	12
第12回	町田 浩一	旋光度測定法	旋光度、旋光分散、円二色性、光学純度	13
第13回	町田 浩一	有機化合物の構造解析	各種スペクトルデータによる構造解析	14
第14回	町田 浩一	有機化合物の構造解析	各種スペクトルデータによる構造解析	14
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験のみで評価する。

教科書

『パートナー・分析化学Ⅱ』（南江堂）、プリント

参考書

なし

準備学習(予習)・復習

機器分析法による分子構造解析は、創薬のプロセスにおいて不可欠な分析法の一つであり、その基本的な知識と技能を十分理解するためには、授業の板書ノート、配布したプリントや練習問題を参考にして毎回予習・復習を励行することが必要です (各 1 時間程度)。

オフィスアワー

教育研究棟 (ウェリタス) 9 階・薬学教育センター 教授室 火曜日 午後 4:30~6:00

有機反応化学Ⅲ

3年次 前期 必修 1単位

担当者 猪股 浩平 (所属: 創薬化学教室)

一般目標 (GIO)

多くの医薬品が含まれる有機化合物について、その構造、物性および反応性を理解するために、カルボニル基やシアノ基を含む官能基の基本的性質を修得する。

到達目標 (SBOs)

1. カルボン酸、カルボン酸誘導体およびニトリルについて、命名法に従って命名できる。
2. カルボン酸、カルボン酸誘導体およびニトリルについて、代表的な合成法を説明できる。
3. カルボン酸の酸性度に影響する因子を列挙し、構造から酸性度を推定できる。
4. カルボン酸、カルボン酸誘導体およびニトリルについて、代表的な反応を説明できる。
5. 代表的な炭素酸の pKa と反応性の関係を説明できる。
6. カルボニル α 位求核置換反応の機構を説明できる。
7. 代表的なカルボニル α 位求核置換反応を列挙し、その反応条件から生成物を予測できる。
8. マロン酸エステル合成およびアセト酢酸エステル合成の反応機構を説明できる。
9. アルドール反応の反応機構を説明できる。
10. 代表的なカルボニル縮合反応を列挙し、その反応条件から生成物を予測できる。
11. 代表的な共役カルボニル付加反応を列挙し、その反応条件から生成物を予測できる。
12. Claisen 縮合および Dieckmann 縮合の反応機構を説明できる。
13. エナミンの製法および反応性を説明できる。
14. カルボニル基が関与する生体反応を列挙できる。

授業形態

講義

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	猪股 浩平	カルボン酸とニトリル	命名法、構造と性質、置換基効果	1, 3
第2回	猪股 浩平	カルボン酸とニトリル	カルボン酸・ニトリルの合成法と反応	2
第3回	猪股 浩平	カルボン酸誘導体と求核アシル化反応	命名法、求核アシル置換反応序論	1, 4
第4回	猪股 浩平	カルボン酸誘導体と求核アシル化反応	カルボン酸誘導体の性質と反応(1): カルボン酸の反応	4
第5回	猪股 浩平	カルボン酸誘導体と求核アシル化反応	カルボン酸誘導体の性質と反応(2): 酸ハロゲン化物、酸無水物の反応	4
第6回	猪股 浩平	カルボン酸誘導体と求核アシル化反応	カルボン酸誘導体の性質と反応(3): エステル、アミドの反応	4
第7回	猪股 浩平	カルボン酸誘導体と求核アシル化反応	ポリマー、生体内のカルボン酸誘導体	14
第8回	猪股 浩平	カルボニル α 置換反応	互変異性、エノールの化学	4
第9回	猪股 浩平	カルボニル α 置換反応	カルボニル α 置換反応(1): ハロゲン化、エノラートイオンの性質と反応	4, 5, 6, 7
第10回	猪股 浩平	カルボニル α 置換反応	カルボニル α 置換反応(2): エノラートイオンの反応、アルキル化反応	4, 6, 7, 8
第11回	猪股 浩平	カルボニル縮合反応	アルドール反応の機構、エノンの合成法	9, 10
第12回	猪股 浩平	カルボニル縮合反応	アルドール反応の種類と応用、Claisen 縮合、Dieckmann 縮合	9, 10, 12
第13回	猪股 浩平	カルボニル縮合反応	共役カルボニル付加、HSAB 理論	10, 11, 12
第14回	猪股 浩平	カルボニル縮合反応	エナミンの化学、Stork エナミン反応、Robinson 環化、生体カルボニル縮合反応	10, 11, 13, 14
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験 (85%) および小テスト (15%) に基づいて評価する。

教科書

『マクマリー有機化学 中』 (東京化学同人)

参考書

『マクマリー有機化学 問題の解き方』 (東京化学同人)

準備学習 (予習)・復習

本講義は、有機化学の中で最も重要な官能基の1つであるカルボニル基の性質や反応を、身につけるためのものです。有機構造化学や有機反応化学 I、II 等の分野と密接に関わるため、事前に復習することを勧めます。また、講義毎に小テスト形式で宿題を課すので、つぎの講義までに必ず提出して下さい (各講義後 2 時間程度の学習内容)。

オフィスアワー

教育研究棟 (ウェリタス) 10階・研究室 2 毎週月曜 16:30~18:30

担当者 内田 龍児 (所属: 天然物化学教室)

一般目標 (GIO)

薬として用いられる生薬成分の生成などについての基本的知識を修得する。また、医薬品開発における天然物の重要性と多様性を理解するために、自然界由来のシーズ (医薬品の種) などに関する基本的知識を修得する。

到達目標 (SBOs)

1. 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生成経路を概説できる。
2. 代表的なポリケタイドの構造を生成経路に基づいて説明し、その基源植物を挙げるができる。
3. 代表的なテルペノイドの構造を生成経路に基づいて説明し、その基源植物を挙げるができる。
4. 代表的な強心配糖体の構造を生成経路に基づいて説明し、その基源植物を挙げるができる。
5. 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生成経路に基づいて説明し、その基源植物を挙げるができる。
6. 代表的なフラボノイドの構造を生成経路に基づいて説明し、その基源植物を挙げるができる。
7. 代表的なアルカロイドの構造を生成経路に基づいて説明し、その基源植物を挙げるができる。
8. 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。
9. 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙できる。

授業形態

パワーポイントを用いた講義。

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	内田 龍児	イントロダクション	講義の進め方と内容の解説	
第2回	内田 龍児	脂肪酸とポリケタイド①	酢酸-マロン酸経路、脂肪酸の生成	1, 2
第3回	内田 龍児	脂肪酸とポリケタイド②	芳香族ポリケタイドの生成	1, 2
第4回	内田 龍児	脂肪酸とポリケタイド③	還元型ポリケタイドの生成	1, 2
第5回	内田 龍児	テルペノイドとステロイド①	イソプレノイド経路、メバロン酸経路、MEP経路	1, 3
第6回	内田 龍児	テルペノイドとステロイド②	テルペノイドの生成	1, 3
第7回	内田 龍児	テルペノイドとステロイド③	トリテルペン、ステロイド、強心配糖体の生成	1, 3, 4
第8回	内田 龍児	シキミ酸経路由来の化合物①	芳香族アミノ酸、フェニルプロパノイドの生成	1, 2, 3
第9回	内田 龍児	シキミ酸経路由来の化合物②	クマリン、リグナン、リグコンの生成	1, 2, 3
第10回	内田 龍児	フラボノイド	フラボノイドの生成、イソフラボンの生成	1, 2, 3
第11回	内田 龍児	アルカロイドおよびその他の含窒素化合物①	アルカロイドの分類、脂肪族アミノ酸由来のアルカロイドの生成	1, 7
第12回	内田 龍児	アルカロイドおよびその他の含窒素化合物②	チロシン由来のアルカロイドの生成	1, 7
第13回	内田 龍児	アルカロイドおよびその他の含窒素化合物③	トリプトファン由来のアルカロイド、プソイドアルカロイドの生成	1, 7
第14回	内田 龍児	天然物医薬資源の研究	生物活性物質の探索、生態系の保全、生物資源の持続的利用	8, 9
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験の成績 (90%) に授業中の演習問題など (10%) を考慮し、評価する。

教科書

『天然物化学』 浪越通夫 編 (非売品)

参考書

『パートナー天然物化学 改訂第3版』 海老塚・森田・阿部 編 (南江堂)

準備学習(予習)・復習

本科目は、「生薬学Ⅰ・Ⅱ」で学習した天然由来の化合物の生成を中心に詳しく解説します。したがって、「生薬学Ⅰ・Ⅱ」の内容を含め、事前に教科書で講義範囲の予習を1時間程度行い、講義中は講義内容のプリント(講義前に配布)への書き込み、また、講義後はこれらを利用して1時間程度復習を行うようにして下さい。

オフィスアワー

教育研究棟(ウェリタス)6階・天然物化学教室 月曜日 午後3時~5時
在室時は可能な限り対応します。

有機化学演習Ⅱ

3年次 前期 必修 1単位

担当者 成田 紘一（所属：医薬合成化学教室）

一般目標 (GIO)

重要な有機化合物であるアミンについて、その構造、化学的性質について理解する。さらにアミンが関連する代表的な化学反応についての知識を習得する。アルケンや共役化合物の構造や反応についての知識を習得する。分子軌道法やペリ環状反応（電子環状反応、付加環化反応、シグマトロピー転位など）についての理解を深める。

到達目標 (SBOs)

1. 有機化合物の基本的な構造、結合、反応について説明出来る。
2. アミンを含めた一般的な有機化合物のpKaと反応性について説明出来る。
3. アミンの性質を理解し、その命名が出来る。
4. アミンの代表的な反応について説明出来る。
5. アルケンや共役化合物の性質について理解する。
6. アルケンや共役化合物の反応について説明出来る。
7. 分子軌道法について説明出来る。
8. ペリ環状反応（電子環状反応、付加環状反応、シグマトロピー転位など）について説明出来る。

授業形態

パワーポイント、プリントおよび教科書を用いて講義を行う。その後に関連領域に関する演習問題に取り組む。

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	成田 紘一	有機化合物の構造と結合(1)	分類、化学結合、オクテット則	1
第2回	成田 紘一	有機化合物の構造と結合(2)	共鳴、Brønsted酸塩基、pKa値	1, 2
第3回	成田 紘一	有機化合物の基本的な反応	求核試薬と求電子試薬、求核置換反応、脱離反応	1
第4回	成田 紘一	アミン化合物(1)	アミンの構造、命名、塩基性度	2, 3, 4
第5回	成田 紘一	アミン化合物(2)	Gabrielアミン合成、還元的アミノ化反応、Hofmann転位、Curtius転位	2, 3, 4
第6回	成田 紘一	アミン化合物(3)	Sandmeyer反応、ジアゾニウムカップリング	2, 3, 4
第7回	成田 紘一	アルケンの構造と反応	アルケンの構造、命名、求電子付加反応	5, 6
第8回	成田 紘一	共役化合物の構造と反応(1)	共役化合物の構造と性質、Diels-Alder反応	5, 6
第9回	成田 紘一	共役化合物の構造と反応(2)	Diels-Alder反応と紫外分光法	5, 6
第10回	成田 紘一	ペリ環状反応(1)	分子軌道法	7
第11回	成田 紘一	ペリ環状反応(2)	フロンティア軌道理論、Woodward-Hoffmann則	8
第12回	成田 紘一	ペリ環状反応(3)	電子環状反応、付加環化反応	8
第13回	成田 紘一	ペリ環状反応(4)	シグマトロピー転位	8
第14回	成田 紘一	まとめ	全体のまとめ	1~8
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験(80%)、演習問題(20%)

教科書

『マクマリー有機化学(上・中・下)』

参考書

『マクマリー有機化学問題の解き方』

『基礎有機化学問題集 第2版』(廣川書店)

準備学習(予習)・復習

本講義では、1, 2年時の復習を行うと共に、有機化学において重要なアミンやペリ環状反応について新しく学習する。マクマリー有機化学の教科書を良く読んで予習(60分)を行い、配布した確認問題、マクマリー有機化学の章末問題および基礎有機化学問題集の関連する事項をしっかりと解くことにより自己学習(復習)することを強く勧める(60分)。

オフィスアワー

教育研究棟9階・医薬合成化学教室 金曜 16:00~18:00

担当者 遠藤 泰之 (所属: 創薬化学教室)

一般目標 (GIO)

生体分子の構造、性質を理解し、医薬品と生体分子との分子間相互作用を考慮した分子設計、構造最適化など創薬化学の基本を習得する。

到達目標 (SBOs)

1. 糖類の構造の特徴と基本的反応を説明できる。
2. 脂質の構造の多様性と生体内での機能の基本を説明できる。
3. 核酸の構造の特徴とDNA配列決定法を説明できる。
4. アミノ酸類、タンパク質の構造の特徴と基本的合成、アミノ酸配列決定、高次構造を説明できる。
5. 医薬品と生体分子との分子間相互作用の種類と特徴を説明できる。
6. ファーマコフォアとは何か、実例とともに説明できる。
7. 受容体のアゴニスト、アンタゴニスト及び構造変化と活性発現の関係を説明できる。
8. 創薬におけるリード化合物の最適化方法の具体例を説明できる。
9. 医薬分子の物理化学的性質を理解し、定量的構造活性相関を説明できる。
10. 代表的医薬品開発の実例 (アンジオテンシン変換酵素阻害薬、アンジオテンシンII受容体拮抗薬、カルシウム拮抗薬、ヒスタミンH2受容体拮抗薬、コレステロール生合成阻害薬、インスリン抵抗性改善薬)を理解する。

授業形態

プリントを配布し、その内容をOHPあるいはプロジェクターでその内容を映写して説明を加えることを基本とする。必要に応じて黒板を使用する。

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	遠藤 泰之	糖の構造化学	糖の分類、糖の鎖状-環状の平衡、構造表示法 (Fischer式、Haworth式、立体式)	1
第2回	遠藤 泰之	糖の構造化学	単糖の反応、多糖の構造	1
第3回	遠藤 泰之	脂質の構造化学	脂質の構造、トリアシルグリセリン、リン脂質、プロスタグランジン、ステロイド	2
第4回	遠藤 泰之	核酸の構造化学	核酸構造の構成要素、核酸の立体構造、DNAの塩基配列決定	3
第5回	遠藤 泰之	アミノ酸の構造化学	アミノ酸の構造、分類、性質及び合成法	4
第6回	遠藤 泰之	タンパク質の構造化学	ペプチド結合の構造上の特徴、ペプチド合成、タンパク質のアミノ酸配列決定、タンパク質の高次構造	4
第7回	遠藤 泰之	分子間相互作用	医薬品と生体分子との分子間相互作用、静電相互作用、水素結合、疎水性相互作用	5
第8回	遠藤 泰之	ファーマコフォア概念と実例	ファーマコフォア概念と実例 (リガンド-受容体の結合における親水性官能基、疎水性構造の役割)	6
第9回	遠藤 泰之	アゴニストとアンタゴニスト	医薬品の構造とアゴニスト、アンタゴニスト	7
第10回	遠藤 泰之	創薬におけるリード化合物の最適化	リード化合物の最適化の進め方、生物学的等価性、薬物動態を考慮した医薬分子設計	8
第11回	遠藤 泰之	創薬におけるリード化合物の最適化	定量的構造活性相関 (置換基数 σ 、疎水性置換基数 π)	9
第12回	遠藤 泰之	代表的医薬品開発の実例	アンジオテンシン変換酵素阻害薬、アンジオテンシンII受容体拮抗薬	10
第13回	遠藤 泰之	代表的医薬品開発の実例	カルシウム拮抗薬、ヒスタミンH2受容体拮抗薬	10
第14回	遠藤 泰之	代表的医薬品開発の実例	コレステロール生合成阻害薬、インスリン抵抗性改善薬	10
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験により評価する。

教科書

『有機化学(下)』 マクマリー (東京化学同人)
『創薬化学・医薬化学』 橘高敦史 (編) (化学同人)

参考書

なし

準備学習(予習)・復習

この講義は生化学 I、II、IV、有機構造化学、有機反応化学 I、II と密接な関連があります。この分野の復習をして下さい。また薬理学 I ~IVとも関連があり、薬理学で学ぶ医薬と化学構造との関係を理解することも目標の一つです。予習復習にあたってはこれらの分野との関連も考えて行って下さい。講義前には教科書の予習1時間程度、講義後には復習1時間程度が必要です。講義開始時に配布する到達目標を細分化したチェックリストも復習に活用して下さい。また、講義開始時に配布する詳細な授業到達目標のチェックリストを活用して学習してください。

オフィスアワー

教育研究棟10階・教授室 月曜 18:00～19:30

分子医薬化学

3年次 後期 必修 1単位

担当者 吉村 祐一（所属：分子薬化学教室）

一般目標 (GIO)

代表的な医薬品について、化学構造を中心に創薬の経緯などを含めて系統的に学ぶ。

到達目標 (SBOs)

1. 代表的な抗菌薬の化学構造式を学び、作用機序との関連性を説明できる。
2. 代表的な抗がん薬の化学構造式を学び、作用機序との関連性を説明できる。
3. 代表的な中枢神経系薬の化学構造式を学び、作用機序との関連性を説明できる。
4. 代表的な循環器系薬の化学構造式を学び、作用機序との関連性を説明できる。
5. 代表的な消化性治療薬の化学構造式を学び、作用機序との関連性を説明できる。
6. 代表的な鎮痛・抗炎症薬の化学構造式を学び、作用機序との関連性を説明できる。
7. 代表的な糖尿病治療薬の化学構造式を学び、作用機序との関連性を説明できる。
8. 代表的な医薬品の創薬研究を説明できる。
9. 代表的な医薬品の合成法を説明できる。

授業形態

プリント、パワーポイント、板書

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	吉村 祐一	抗菌薬(1)	β -ラクタム系抗生物質	1
第2回	吉村 祐一	抗菌薬(2)	合成抗菌薬	1
第3回	吉村 祐一	抗がん剤(1)	がんと化学療法(1)	2
第4回	吉村 祐一	抗がん剤(2)	がんと化学療法(2)	2
第5回	吉村 祐一	中枢神経系薬(1)	抗精神病薬、抗うつ薬、パーキンソン病治療薬	3
第6回	吉村 祐一	中枢神経系薬(2)	抗痙攣薬、痴呆改善薬、催眠薬、ベンゾジアゼピン系抗不安薬	3
第7回	吉村 祐一	循環器系薬(1)	心臓作用薬、高血圧症治療薬	4, 8
第8回	吉村 祐一	循環器系薬(2)	高脂血症治療薬	4, 8
第9回	吉村 祐一	免疫抑制薬および鎮痛・抗炎症薬	免疫抑制薬、抗炎症薬、鎮痛薬	6
第10回	吉村 祐一	消化性潰瘍薬	消化性潰瘍とその治療薬	4, 5, 7, 8
第11回	吉村 祐一	糖尿病治療薬	糖尿病とその治療薬	7
第12回	吉村 祐一	医薬品製造法	医薬品の合成法	9
第13回	吉村 祐一	医薬品製造法	医薬品の合成法	9
第14回	吉村 祐一	まとめ	全体のまとめ	1~9
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験(85%)、演習問題・課題(15%)

教科書

『創薬科学・医薬化学』 橘高敦史 (化学同人)

参考書

『マクマリー有機化学 第8版』 (東京化学同人)

準備学習(予習)・復習

講義前に教科書の該当する部分を読み予習して下さい。プリントの内容について、教科書の該当部分を含めて復習することを勧めます(1時間程度)。

オフィスアワー

火、木曜日 午後4時30分~6時30分、質問がある学生には上記以外の時間でも可能な限り対応しますので気軽に訪ねて来て下さい。

合成戦略論

3年次 後期 必修 1単位

担当者 成田 紘一（所属：医薬合成化学教室）

一般目標 (GIO)

創薬研究において、ターゲット分子（医薬品あるいは開発候補化合物）をいかにして合成するかという「合成戦略」が重要である。実際の医薬品を例にあげて“逆合成解析”を行い、出発物質（原料）の選定、個々の反応の選択、および各反応の組み合わせ方法について学ぶ。

到達目標 (SBOs)

1. 基本的な有機化学反応の知識を活用することができる。
2. ターゲット分子の逆合成解析ができる。
3. 代表的な人名反応について概説できる。
4. 医薬品の基本的な合成法を概説できる。
5. 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。
6. 課題として与えられた医薬品を合成できる。

授業形態

講義

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	成田 紘一	ターゲット分子の合成	逆合成解析	1, 2
第2回	成田 紘一	ハロゲン化合物	塩酸フェノキシベンザミン	1~6
第3回	成田 紘一	エーテル	フマル酸クレマスチン、クエン酸オルフェナドリン	1~6
第4回	成田 紘一	アミン(1)	塩酸トリベレナミン、塩酸クロルプロマジン、塩酸プロプラノール	1~6
第5回	成田 紘一	アミン(2)	塩酸メタンフェタミン、塩酸ピコペリン、塩酸ヘキシルカイン	1~6
第6回	成田 紘一	アルコール(1)	塩酸ジフェニドール、メタンスルホン酸プリジノール	1~6
第7回	成田 紘一	アルコール(2)	フェネチルアルコール、塩酸ベナクチジン	1~6
第8回	成田 紘一	カルボン酸およびその誘導体	イブフェナック、塩酸プロカイン、塩酸ジブカイン	1~6
第9回	成田 紘一	カルボニル化合物(1)	エビネフィリン、塩酸イソプロテレノール、アモバルビタール	1~6
第10回	成田 紘一	カルボニル化合物(2)	イブプロフェンおよび塩酸メベリジン	1~6
第11回	成田 紘一	炭化水素	塩酸トリプロリジン、塩酸プロブタシン	1~6
第12回	成田 紘一	多官能基化合物(1)	塩酸シクロペントレート、塩酸アルファプロジン	1~6
第13回	成田 紘一	多官能基化合物(2)	塩酸トリヘキシフェニジル、ホモカンフィン	1~6
第14回	成田 紘一	複素環化合物	フェンサクシミド、アンチピリン、ニトラゼパム	1~6
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験で評価する(100%)。

教科書

『標的化合物の有機合成』(三共出版)

参考書

『マクマリー 有機化学(上・中・下)』(東京化学同人)

『知っておきたい有機反応 100』(東京化学同人)

準備学習(予習)・復習

将来、創薬研究者・技術者として自立するための知識を養うための授業です。休まず積極的に授業に参加してください。

予習(60分)・復習(60分)で、指定教科書および有機化学の教科書(マクマリー)を熟読し、今まで習得した有機化学の知識を統合的に活用できるように学習すること。

オフィスアワー

教育研究棟(ウェリタス)9階・医薬合成化学教室 金曜日 16:00~18:00

医薬品開発概論

3年次 後期 必修 1単位

担当者 吉村 祐一（所属：分子薬化学教室）

一般目標 (GIO)

医薬品開発の実際を理解するために、医薬品創製と承認に至るプロセスに関する基本的知識を修得し、その社会的使命・重要性に目を向ける態度を身につける。

到達目標 (SBOs)

1. 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。
2. 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。
3. 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。
4. 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。
5. ジェネリック医薬品の役割について概説できる。
6. 希少疾病に対する医薬品（オーファンドラッグ）開発の重要性について説明できる。
7. 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。
8. 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。
9. 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。
10. 市販後調査の制度とその意義について説明できる。
11. 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション (ICH) について概説できる。
12. GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPSP (Good Post-Marketing Study Practice) の概略と意義について説明できる。
13. 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。
14. 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど）について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）
15. 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。
16. 医薬品創製における治験の役割を説明できる。

授業形態

講義、SGD、WEBを利用した自己学習

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	吉村 祐一	イントロダクション、医薬品開発のコンセプト	医薬品開発の歴史、日本の疾病特徴と医薬品開発における考慮因子	1, 2, 15
第2回	吉村 祐一	医薬品市場と開発すべき医薬品(1)	世界と日本の製薬業界の現状：日本及び世界市場で売上高上位の医薬品	3
第3回	吉村 祐一	医薬品市場と開発すべき医薬品(2)	ジェネリック医薬品とその意義：生物学的同等性、溶出試験	5
第4回	吉村 祐一	医薬品市場と開発すべき医薬品(3)	オーファンドラッグ（稀少疾病に対する医薬品）について：定義、優先審査制度	6
第5回	吉村 祐一	医薬品の試験研究(1)	医薬品開発における最先端研究：バイオインフォマティクス、抗体医薬、核酸医薬	15
第6回	吉村 祐一	医薬品の試験研究(2)	医薬品開発における非臨床試験：試験項目、GLP、安全性薬理試験ガイドライン	7, 12
第7回	吉村 祐一	医薬品の試験研究(3)	臨床試験の目的と実施概要：第1～3相試験の意味、GCP、治験組織（IRB、CRO、SMO）	8, 12, 16
第8回	吉村 祐一	医薬品の承認(1)	医薬品の承認申請と承認に至るプロセス：機構による審査、承認拒否事由	9
第9回	吉村 祐一	医薬品の承認(2)	医薬品開発におけるICH(国際的ハーモナイゼーション)について	11
第10回	吉村 祐一	医薬品の承認(3)	市販後調査(PMS)制度：GPSP、副作用報告制度、再審査制度、再評価制度	10
第11回	吉村 祐一	薬害から学ぶ(1)	薬害（サリドマイド、スモン、ソリブジン、非加熱製剤など）のSGDによる学習	14
第12回	吉村 祐一	薬害から学ぶ(2)	SGD発表	14
第13回	吉村 祐一	医薬品の価格決定	薬価基準と薬価算定：類似薬効比較方式、原価計算方式、R2方式	4
第14回	吉村 祐一	医薬品に関する知的財産権	特許による知的財産権保護：特許要件、特許明細書、外国出願（パリ条約、PCT）	13
第15回			試験	

成績評価方法

試験（75%）、課題及び小テスト（15%）、SGDに関する評価（10%）

教科書

『ベーシック薬学教科書シリーズ6 創薬化学・医薬化学』 橘高淳史 編（化学同人）

参考書

『新薬創製への招待－創薬から市販後臨床試験まで－』 安生紗枝子 他 著 （共立出版）

『スタンダード薬学シリーズ8 医薬品の開発と生産』 日本薬学会 編 （東京化学同人）

準備学習(予習)・復習

講義には教科書以外にパワーポイントとプリントを使用します。パワーポイントのファイルはlessonフォルダ内にありますので、こちらを利用して、1時間程度の予習・復習を推奨します。

また、授業中、不定期にMoodleを利用して小テストを行います。

講義では製薬業界に関する内容もかなり取り上げます。製薬業界への就職を考えている人は、業界の基礎知識となる部分も多いので、Moodle等を利用してしっかり自己学習を行ってください。

オフィスアワー

火、木曜日 午後4時30分～6時30分

質問がある学生には上記以外の時間でも可能な限り対応しますので気軽に訪ねて来て下さい。

臨床分析化学

3年次 後期 必修 1単位

担当者 藤村 務 (所属：臨床分析化学教室)

一般目標 (GIO)

薬学研究や臨床現場で分析技術を適切に応用するために、代表的な分析法の基本知識と技能を修得する。

到達目標 (SBOs)

1. 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。[C2-(6)-①-1]
2. 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。[C2-(6)-①-2]
3. 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。[C2-(6)-②-1]
4. 免疫化学的測定法の原理を説明できる。[C2-(6)-②-2]
5. 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。[C2-(6)-②-3]
6. 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。[C2-(5)-②-1]
7. 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。[Adv-C2-11-2]
8. 薬学領域で繁用されるその他の分析技術 (バイオイメージング、マイクロチップなど) について概説できる。[Adv-C2-11-3]
9. クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。[C2-(5)-①-1]
10. 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。[C2-(5)-①-3]
11. ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。[C2-(5)-①-4]
12. 質量分析法の原理および応用例を説明できる。[C2-(4)-③-1]
13. 質量分析法の生体分子解析への応用例について説明できる。[Adv-C2-6-1]
14. 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。[Adv-C1-5-1]
15. 代表的なドライケミストリーについて概説できる。[C2-(6)-②-4]

授業形態

講義

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	藤村 務	総論	臨床分析化学に用いられる分析法の特徴と試料の前処理	1
第2回	藤村 務	総論	臨床分析化学における精度管理	2
第3回	藤村 務	分析技術の臨床応用	臨床化学における分析法総論	3
第4回	藤村 務	分析技術の臨床応用	免疫測定法の理論	4, 14
第5回	藤村 務	分析技術の臨床応用	免疫測定法の臨床応用	4, 14
第6回	藤村 務	分析技術の臨床応用	酵素分析 (酵素活性測定法)	5
第7回	藤村 務	分析技術の臨床応用	酵素的分析法による定量法 (血糖値、脂質、非タンパク性窒素など)	5
第8回	藤村 務	分析技術の臨床応用	電気泳動法の臨床応用 (1)	6, 14
第9回	藤村 務	分析技術の臨床応用	電気泳動法の臨床応用 (2)	6, 14
第10回	藤村 務	分析技術の臨床応用	質量分析法の臨床応用 (1)	9, 10, 11, 12, 13
第11回	藤村 務	分析技術の臨床応用	質量分析法の臨床応用 (2)	9, 10, 11, 12, 13
第12回	藤村 務	分析技術の臨床応用	センサーとイメージング (1)	7, 8, 14
第13回	藤村 務	分析技術の臨床応用	センサーとイメージング (2)	7, 8, 14
第14回	藤村 務	分析技術の臨床応用	ドライケミストリー	3, 4, 5, 15
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験で評価する。

教科書

『パートナー・分析化学Ⅱ』 山口政俊ら編集 (南江堂)

参考書

『薬学生のための臨床化学』 後藤順一・片山義章 (南江堂)

準備学習(予習)・復習

機器分析学 I および II が基本となるので十分復習して授業に臨むこと (1 時間程度)。事前に教科書の該当する部分を読み、予習する。授業では、プリントや演習問題も用いて説明するため、授業で学習した範囲の教科書やプリントを授業終了後に読み返して内容の理解に努めること。十分復習して授業に臨むこと (1 時間程度)。

オフィスアワー

教育研究棟 (ウェリタス) 9 階・臨床分析化学教室 月～金 午後 3 時～5 時 30 分

構造解析演習

3年次 後期 必修 1単位

担当者 八百板 康範・町田 浩一（所属：薬学教育センター）
成田 紘一（所属：医薬合成化学教室）、村田 敏拓（所属：生薬学教室）
山崎 寛之（所属：天然物化学教室）

一般目標 (GIO)

機器分析と化学構造解析に関する復習を演習形式で行ってさらに理解を深め、化学物質の構造決定に関する基本的な知識と技能を身につける。

到達目標 (SBOs)

1. 各種機器分析法を用いてさまざまな有機化合物の構造を検討し、解析することができる。

授業形態

演習

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	八百板 康範	有機化合物の構造解析	化学物質の構造解析	1
第2回	八百板 康範	有機化合物の構造解析	化学物質の構造解析	1
第3回	八百板 康範	有機化合物の構造解析	化学物質の構造解析	1
第4回	町田 浩一	有機化合物の構造解析	化学物質の構造解析	1
第5回	町田 浩一	有機化合物の構造解析	化学物質の構造解析	1
第6回	成田 紘一	有機化合物の構造解析	反応生成物の構造解析	1
第7回	成田 紘一	有機化合物の構造解析	反応生成物の構造解析	1
第8回	成田 紘一	有機化合物の構造解析	反応生成物の構造解析	1
第9回	村田 敏拓	有機化合物の構造解析	生薬成分の構造解析	1
第10回	村田 敏拓	有機化合物の構造解析	生薬成分の構造解析	1
第11回	村田 敏拓	有機化合物の構造解析	生薬成分の構造解析	1
第12回	山崎 寛之	有機化合物の構造解析	海洋天然物の構造解析	1
第13回	山崎 寛之	有機化合物の構造解析	海洋天然物の構造解析	1
第14回	山崎 寛之	有機化合物の構造解析	海洋天然物の構造解析	1
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験により評価する。

教科書

プリント

参考書

なし

準備学習(予習)・復習

本演習は、種々の有機化合物の構造を決めるために必要な機器分析法に関する知識や技能をさらに深めることが目的です。3年前期開講の「分子構造解析学」が基本的知識となるので十分予習してから本演習に臨むこと(1時間程度)。また、配布された講義プリントや演習問題については授業終了後にしっかり復習して内容の理解に努めてください(1時間程度)。

オフィスアワー

八百板 康範	：教育研究棟(ウェリタス)9階・薬学教育センター スタッフ室	月～金曜日	在室時はいつでも対応
町田 浩一	：教育研究棟(ウェリタス)9階・薬学教育センター 教授室	火曜日	午後4:30～6:00
成田 紘一	：教育研究棟(ウェリタス)9階・医薬合成化学 研究室1	水曜日	午後3:30～5:00
村田 敏拓	：教育研究棟(ウェリタス)6階・生薬学 研究室2	火曜日	午後4:00～5:00
山崎 寛之	：教育研究棟(ウェリタス)6階・天然物化学 スタッフ室	月曜日	午後3:00～5:00

生体情報制御学

3年次 前期 必修 1単位

担当者 福田 友彦 (所属: 細胞制御学教室)

一般目標 (GIO)

生体のダイナミックな情報ネットワーク機構を物質や細胞レベルで理解するために、代表的な情報伝達物質の種類、作用発現機構などに関する基本的知識を修得する。

到達目標 (SBOs)

1. 細胞情報伝達の概要を理解する。
2. 細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質 (受容体、チャネルなど) の構造と機能を概説できる。
3. 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。
4. 細胞内情報伝達に関与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。
5. 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。
6. 代表的な細胞内 (核内) 受容体の具体例を挙げて説明できる。
7. 代表的なペプチド性ホルモン、アミノ酸誘導体ホルモン、ステロイドホルモンを挙げ生理作用、分泌調節機構などを説明できる。
8. 代表的なサイトカインを挙げそれらの役割を概説できる。
9. 代表的な増殖因子を挙げそれらの役割を概説できる。
10. 代表的なケモカインを挙げそれらの役割を概説できる。

授業形態

講義

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	福田 友彦	細胞の情報伝達	一般原理	1
第2回	福田 友彦	核内受容体とそのリガンド	ステロイドホルモン・一酸化窒素などを介するシグナル経路	3, 6, 7
第3回	福田 友彦	サイトカイン・増殖因子・ケモカイン	サイトカイン・細胞増殖因子・ケモカインの生理的役割とシグナルカスケード	8, 9, 10
第4回	福田 友彦	セカンドメッセンジャー	cAMPとイノシトール1,4,5-三リン酸の役割	3, 4
第5回	福田 友彦	プロテインキナーゼ	セリン/トレオニンキナーゼを介する経路	3, 5
第6回	福田 友彦	プロテインキナーゼ	チロシンキナーゼを介するシグナル経路 (キナーゼを内在する受容体)	2, 3, 5
第7回	福田 友彦	プロテインキナーゼ	チロシンキナーゼを介するシグナル経路 (キナーゼと結合する受容体)	2, 3, 5
第8回	福田 友彦	Gタンパク質	3量体Gタンパク質の機能	3
第9回	福田 友彦	Gタンパク質	低分子量Gタンパク質の機能(1): Rasシグナルカスケード	3, 5
第10回	福田 友彦	Gタンパク質	低分子量Gタンパク質の機能(2): Rhoと細胞骨格制御	3, 5
第11回	福田 友彦	シナプス可塑性と記憶	グルタミン酸受容体を介するシグナル経路の生理的役割	2, 3
第12回	福田 友彦	細胞周期	細胞周期を制御する因子を介するシグナル経路の生理的役割	3
第13回	福田 友彦	細胞死	アポトーシスを制御する因子を介するシグナル経路の生理的役割	3
第14回	福田 友彦	がん	生体情報制御の破綻と疾患	3
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験で評価する。

教科書

『ヴォート基礎生化学 第4版』 DONALD VOET(他) 著、田宮信雄(他) 訳 (東京化学同人)

参考書

『分子細胞生物学 第5版』 H. LODISH(他) 著、石浦 章一(他) 訳 (東京化学同人)

準備学習(予習)・復習

2年次開講科目「生体分子構造学」で学習した生体高分子の構造的特徴をもつ分子の働きを、「細胞内情報伝達」に焦点を絞って学習します。調和のとれた分子の活動が調和のとれた組織・臓器へ、調和のとれた臓器の働きが健康な体(個体)へつながります。代表的な情報伝達物質の種類、作用発現機構などに関する基本的知識を修得することは、生命現象を理解する上でとても大切です。具体的には、予習: 講義予定の教科書の範囲を通読し、関連する参考図書を用キーワードについて調べておく。(1時間程度) 復習: 教科書の講義該当部分を中心に必要に応じて講義メモを復習し、要点をまとめること。(1時間程度)

これまでに学んできたことを基礎にしていますので、これまでに学習してきた事を復習して、本授業に臨んでください。毎回授業の最初に前回の授業内容の理解度を確認する時間を設けます。できれば、毎時間ごとの復習にとどまることなく、「生体情報制御学」の範囲全般および他の授業科目の講義内容と関連づけた復習を行うようにしてください。

オフィスアワー

教育研究棟(ウェリタス)5階・細胞制御学教室 スタッフ室 月曜日 17時00分~18時00分

担当者 藤村 茂 (所属：臨床感染症学教室)

一般目標 (GIO)

細菌感染症を理解するために、微生物の分類、形態、感染様式などに関する基本的な知識を習得する。

到達目標 (SBOs)

1. 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。
2. 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。
3. 細菌の分類や性質 (系統的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など) を説明できる。
4. 細菌の構造と増殖機構について説明できる。
5. 細菌の異化作用 (呼吸と発酵) および同化作用について説明できる。
6. 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質導入、形質転換) について説明できる。
7. 代表的な細菌毒素について説明できる。
8. 原虫および蠕虫の性状を概説できる。
9. 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。
10. 主な滅菌法および消毒法について説明できる。
11. グラム陽性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌など) およびグラム陽性桿菌 (破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌など) について概説できる。
12. グラム陰性球菌 (淋菌、髄膜炎菌など) およびグラム陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ピブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など) について概説できる。
13. グラム陰性らせん菌 (ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど) およびスピロヘータについて概説できる。
14. 抗酸菌 (結核菌、らい菌など) について概説できる。
15. マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。
16. 原虫 (マラリア原虫、トキソプラズマ、脛トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫 (回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど) について概説できる。
17. 以下の抗菌薬の薬理 (薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性) および臨床適用を説明できる。β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体 (アミノグリコシド) 系、新キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤 (ST 合剤を含む)、その他の抗菌薬
18. 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢
19. 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。回虫症、蟯虫症、アニサキス症

授業形態

講義

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	藤村 茂	総論 1	微生物学の歴史と細菌の形態、分類、増殖、代謝について	1, 2, 3
第2回	藤村 茂	総論 2	遺伝子、細菌毒素、感染防御機構 (細菌叢・プロバイオティクス) について	4, 5, 6, 7
第3回	藤村 茂	細菌 (1)	グラム陰性通性嫌気性桿菌と好気性桿菌及び球菌の形態・病原性について	7, 12
第4回	藤村 茂	細菌感染症 (1)	腸内細菌による感染症について解説	12
第5回	藤村 茂	細菌 (2)	らせん菌群、偏性嫌気性菌、マイコプラズマについて解説	13, 15
第6回	藤村 茂	細菌感染症 (2)	ヘリコバクターピロリ、カンピロバクター感染症について解説	13
第7回	藤村 茂	細菌 (3)	グラム陽性通性嫌気性および好気性球菌、桿菌の形態・病原性について解説	11
第8回	藤村 茂	細菌感染症 (3)	黄色ブドウ球菌と連鎖球菌感染症について解説	11
第9回	藤村 茂	細菌 (4)	芽胞形成菌の形態と病原性について解説	7, 11
第10回	藤村 茂	細菌感染症 (4)	結核と非定型抗酸菌について解説	14
第11回	藤村 茂	細菌 (5)	リケッチア、クラミジア、原虫について解説	8, 16, 18
第12回	藤村 茂	抗菌薬	抗菌薬の種類と作用機序・抗菌スペクトルについて解説	17
第13回	藤村 茂	消毒と滅菌	消毒薬の分類と作用および各種滅菌法について解説	9, 10
第14回	藤村 茂	寄生虫	寄生虫の病原性と各種寄生虫症について解説	19
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験の結果で評価する。

教科書

『微生物学 病原微生物と治療薬 改訂第7版』 (南江堂)

参考書

附属図書館にある微生物学関連図書

準備学習(予習)・復習

教授要目に記載された用語や感染症の概略を事前に確認しておくこと、講義内容の理解がスムーズになります。また、講義中の板書内容を教科書および図書館の関連書籍で確認し、新たに整理すると知識が深まる。予習・復習には各1時間程度の実施が望ましい。

オフィスアワー

附属病院3階・臨床感染症学教室に要連絡

分子免疫学

3年次 前期 必修 1単位

担当者 渡部 俊彦 (所属: 薬学教育センター)

一般目標 (GIO)

アレルギーや自己免疫疾患について説明できる。

到達目標 (SBOs)

1. 免疫に関する専門用語が理解できる。
2. 免疫担当細胞について説明できる。
3. 抗原について説明できる。
4. 抗体について説明できる。
5. 補体について説明できる。
6. サイトカインについて説明できる。
7. アレルギーについて説明できる。
8. ワクチンについて説明できる。
9. 免疫検査法の概略が説明できる。

授業形態

講義

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	渡部 俊彦	I型アレルギー(1)	I型アレルギーの発症機構の解説	1, 2, 3, 4, 6, 7
第2回	渡部 俊彦	I型アレルギー(2)	I型アレルギーの症例と治療方法の解説	1, 2, 3, 4, 6, 7
第3回	渡部 俊彦	I型アレルギー(3)	I型アレルギーの症例と治療方法の解説	1, 2, 3, 4, 6, 7
第4回	渡部 俊彦	I型アレルギー(4)	I型アレルギーの症例と治療方法の解説	1, 2, 3, 4, 6, 7
第5回	渡部 俊彦	II型、V型アレルギー(1)	II型、V型アレルギーの発症機構、症状、治療方法の解説	1, 2, 3, 4, 6, 7
第6回	渡部 俊彦	II型、V型アレルギー(2)	II型、V型アレルギーの発症機構、症状、治療方法の解説	1, 2, 3, 4, 6, 7
第7回	渡部 俊彦	III型アレルギー(1)	III型アレルギーの発症機構、症状、治療方法の解説	1, 2, 3, 4, 6, 7
第8回	渡部 俊彦	III型アレルギー(2)	III型アレルギーの発症機構、症状、治療方法の解説	1, 2, 3, 4, 6, 7
第9回	渡部 俊彦	III型アレルギー(3)	III型アレルギーの発症機構、症状、治療方法の解説	1, 2, 3, 4, 6, 7
第10回	渡部 俊彦	IV型アレルギー(1)	IV型アレルギーの発症機構、症状、治療方法の解説	1, 2, 3, 4, 6, 7
第11回	渡部 俊彦	IV型アレルギー(2)	IV型アレルギーの発症機構、症状、治療方法の解説	1, 2, 3, 4, 6, 7
第12回	渡部 俊彦	IV型アレルギー(3)	IV型アレルギーの発症機構、症状、治療方法の解説	1, 2, 3, 4, 6, 7
第13回	渡部 俊彦	ワクチン	ワクチンの概念と作用機構についての解説	1, 2, 3, 4, 6, 8
第14回	渡部 俊彦	免疫検査法	免疫反応を応用した検査方法の解説	1, 2, 3, 4, 5, 9
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験 (100%)

教科書

『薬系免疫学』 植田正 編 (南江堂)

参考書

『新しい微生物学』 大野尚仁・笹津備規 編 (廣川書店)

準備学習(予習)・復習

毎回の講義開始前・終了後に講義内容に関する確認試験を行います。講義前の試験で、その日の学習到達目標を確認し、講義終了後の試験で講義内容の理解度を確認してください。

練習問題を配付しますので教科書やノートを見ながら問題を解く練習を繰り返し行ってください(予習10分、復習30分)。

答えや結論に関する疑問が生じた時は放置せず、すぐに質問に来てください。

オフィスアワー

教育研究棟(ウェリタス)9階・薬学教育センター 午後1時~午後5時

担当者 佐々木 雅人 (所属：感染生体防御学教室)

一般目標 (GIO)

生命科学の研究における遺伝子工学技術は、必要不可欠な技術となっている。生命科学研究に必要な遺伝子工学技術の理論・原理に関する基本的知識を修得する。さらに、遺伝子工学技術がどのような分野に、どのように応用されているのかを理解できる技能を身につける。

到達目標 (SBOs)

- セントラルドグマについて概説できる。
- ゲノム、染色体、遺伝子、DNA/RNA、cDNAの相違を説明できる。
- DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。
- 組換えDNA技術の概要を説明できる。
- 組換えDNAに関する法律(カルタヘナ法)を理解し説明できる。
- 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について説明できる。
- 制限酵素について説明できる。
- 核酸を修飾する酵素の種類、使用用途を説明できる。
- 核酸の定量法や電気泳動法について説明できる。
- 遺伝子工学で用いるベクターの種類や用途について説明できる。
- プラスミドやファージの宿主大腸菌の遺伝子型について概説できる。
- クローニングベクターの青白選択(α 相補)について概説できる。
- 形質転換法について具体例を挙げて説明できる。
- 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。
- RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。
- 遺伝子ライブラリーについて説明できる。
- ハイブリダイゼーション(プロット)法について概説できる。
- PCR法による遺伝子増幅の原理を説明できる。
- DNA塩基配列の決定法を説明できる。
- 外来遺伝子の導入法について具体例を挙げて説明できる。
- 導入遺伝子産物(タンパク質)の分析・解析法について説明できる。

授業形態

授業用に作成したプリントを中心に、教科書を参考にして板書をまじえながら進めていく。

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	佐々木 雅人	遺伝子工学の基本	核酸の化学・分子遺伝学の復習、遺伝子工学技術の概要、組換えDNA取り扱いの安全性と倫理・カルタヘナ議定書	1, 2, 3, 4, 5, 6
第2回	佐々木 雅人	遺伝子工学で用いられる酵素	ヌクレアーゼ、制限酵素、DNAメチル化酵素、リガーゼ、ポリメラーゼ、逆転写酵素	7, 8
第3回	佐々木 雅人	遺伝子工学で用いられる酵素	核酸修飾酵素(末端核酸付加酵素、脱リン酸化酵素、リン酸化酵素、など)	8
第4回	佐々木 雅人	ベクター	プラスミドの種類・構造、プラスミドの複製様式、lacオペロンと α 相補	10, 11, 12
第5回	佐々木 雅人	ベクター	ファージの生活環・複製様式、ファージベクターの種類・構造	10, 11
第6回	佐々木 雅人	宿主と形質転換	宿主大腸菌、大腸菌の制限修飾系、大腸菌の遺伝子記号、形質転換法	10, 11, 13
第7回	佐々木 雅人	遺伝子クローニング	遺伝子クローニングの概要、cDNAライブラリー、ゲノムDNAライブラリー	7, 8, 10, 14, 15, 16
第8回	佐々木 雅人	DNA解析法	核酸の定量法、電気泳動法	9
第9回	佐々木 雅人	核酸の特異的検出法(ハイブリダイゼーション法)	サザン・ノザンプロット、標識ヌクレオチドの種類・検出法・標識法	7, 8, 9, 17
第10回	佐々木 雅人	核酸の特異的検出法(ハイブリダイゼーション法)	解析例と応用(RFLP、ノザンプロット、in situハイブリダイゼーション、など)	7, 8, 9, 17
第11回	佐々木 雅人	PCR法	核酸の物理化学的特徴、PCRの原理、PCRを用いたクローニング法	7, 8, 14, 18
第12回	佐々木 雅人	DNA塩基配列決定法	ジデオキシ法(サンガー法)、サイクルシーケンス法	7, 8, 14, 18, 19
第13回	佐々木 雅人	遺伝子導入法	プラスミドDNA導入法、ウイルスベクター	20
第14回	佐々木 雅人	遺伝子産物解析	SDS-PAGE、等電点電気泳動法、ウェスタンプロット法	21
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験(75%)、課題(5%)、小テスト(20%)

教科書

『遺伝子工学 - 基礎から応用まで -』 野島博 著 (東京化学同人)

参考書

『ヴォート 基礎生化学 第4版』 ヴォート(他)著、田宮信雄(他)訳 (東京化学同人)

『エッセンシャル細胞生物学 第4版』 Alberts B.(他)著、中村桂子・松原謙一 監訳 (南江堂)

『薬学のための分子生物学』 金田典雄・伊藤進 編 (廣川書店)

準備学習(予習)・復習

「遺伝子工学」は、“学問”というよりも、それを用いた“技術”という側面が強いです。遺伝子工学技術を使いこなし、生命科学研究や医療・創薬などに役立てられるようになる事が理想です。そのために、本科目では遺伝子工学の基本原則を中心に学ぶことを通じて、「分子生物学実習」では実際の体験を通じて、「遺伝子工学」への理解を深めてもらいたい。

「工学」と聞くと、それだけで難解な学問を想像する人がいますが、「遺伝子工学」は決して難解な学問ではありません。しかしながら、この科目の理解には、1～2年次で学習した「基礎化学」「生物学」「生化学Ⅰ～Ⅳ」「生体分子構造学」の知識が乏しいと、難しいと感じるでしょう。よって、これら科目の理解が必須で、特に“遺伝学の基礎”、“核酸(DNA・RNA)の構造”や“セントラルドグマ”については習熟しておく必要があります。それらの科目で学んだ範囲は、講義前までに必ず復習し、授業に臨んでください。

講義内容は、初めて聞く単語や用語が多いです。従って予習は、あらかじめ教科書を読み、単語の意味や用語について頭に入れておいて下さい(30分程度)。授業はスライド(プリント)を中心に講義を行います。自己学習の際は、講義内容(プリント)の復習に加え、授業で行った範囲について教科書を熟読し、理解を深めるように努めて下さい(1時間程度)。教科書のみで不十分な部分や、教科書に記載の無い部分は、参考書を活用し、復習を行って下さい。また、授業の冒頭に、指定した予習の範囲や、前回までに行った授業内容についての確認(小テスト)を行います。その対策も十分に時間をかけて行って下さい(30分程度)。

オフィスアワー

教育研究棟(ウェリタス)8階・感染生体防御学教室

在室時は可能な限りいつでも対応します。

中毒学概論

3年次 前期 必修 1単位

担当者 柴田 信之（所属：感染生体防御学教室）

一般目標 (GIO)

人の公衆衛生環境を良好に保ち保健衛生に貢献するために、生活環境に存在する化学物質の毒性及びそれらによる中毒とその処置についての基本的な知識を習得する。

到達目標 (SBOs)

1. 毒作用の種類と毒性評価のための試験法を概説できる。
2. 臓器特異的に毒性を示す化学物質を列挙できる。
3. 有害化学物質、金属の毒性の特徴について説明できる。
4. 麻薬やアルコールの中毒について説明できる。
5. 農薬などの作用と毒性について説明できる。
6. 化学物質の代謝による解毒と活性化について説明できる。
7. 代表的な中毒原因物質の解毒処理法を説明できる。
8. 薬物中毒における生体試料の取り扱いについて説明できる。

授業形態

配布プリント及び板書を用いた講義である。

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	柴田 信之	毒作用の種類と代謝	毒と毒作用、急性中毒、慢性中毒、化合物の代謝酵素による酸化	1, 3, 6
第2回	柴田 信之	化合物の代謝	抱合反応	1, 3, 6
第3回	柴田 信之	農薬中毒	有機リン系農薬中毒、カルバメート系農薬中毒	3, 5, 7
第4回	柴田 信之	農薬中毒	有機塩素系農薬中毒、その他の農薬中毒	3, 5
第5回	柴田 信之	気体中毒	一酸化炭素中毒、硫化水素中毒、青酸ガス中毒	2, 3
第6回	柴田 信之	有機溶剤中毒	四塩化炭素、クロロホルム、トルエン中毒	2, 3
第7回	柴田 信之	重金属中毒	水銀・ヒ素・カドミウム中毒	2, 3
第8回	柴田 信之	薬物中毒	あへん、コカイン、LSDの作用	3, 4
第9回	柴田 信之	薬物中毒	麻薬中毒、大麻中毒、覚せい剤、MDMA中毒	3, 4
第10回	柴田 信之	薬物中毒	毒性の高い化合物、シアン化合物等による中毒	3, 4
第11回	柴田 信之	アルコール中毒	メチルアルコール中毒、エチルアルコール中毒	3, 4
第12回	柴田 信之	有害化学物質中毒	アルデヒド類、ほか	3, 4
第13回	柴田 信之	中毒と処置	中毒の解毒	7
第14回	柴田 信之	毒物の分析	試料の取り扱いと検出法	8
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験のみ

教科書

『コンパス衛生薬学』 鍛冶利幸 編集 (南江堂)

参考書

なし

準備学習(予習)・復習

- ・この科目は2年後期の「衛生化学」と密接に関連していますので復習しておいて下さい。
- ・毎日の授業範囲について教科書、配布プリントで予習・復習を欠かさず行って下さい。
- ・練習問題を配布するので、講義と並行して2時間程度問題を繰り返し解き、着実に知識を固めていくようにして下さい。

オフィスアワー

教育研究棟 (ウェリタス) 8階・感染生体防御学教室 火曜日 午後4時～6時

担当者 熊谷 健 (所属：環境衛生学教室)

一般目標 (GIO)

生態系や生活環境を保全、維持するために、それらに影響を及ぼす自然現象、人為的活動を理解し、環境汚染物質などの成因、人体への影響、汚染防止、汚染除去などに関する基本的知識と技能を修得し、環境の改善に向かって努力する態度を身につける。

到達目標 (SBOs)

1. 非電離放射線 (紫外線、赤外線など) を列挙し、生体への影響を説明できる。
2. 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。
3. 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。
4. 化学物質の環境内動態 (生物濃縮など) について例を挙げて説明できる。
5. 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。
6. 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。
7. 環境基本法の理念を説明できる。
8. 環境汚染 (大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など) を防止するための法規制について説明できる。
9. 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。
10. 水の浄化法、塩素処理について説明できる。
11. 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定法を説明できる。
12. 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。
13. 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定法を説明できる。
14. 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。
15. 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、測定法、健康影響について説明できる。
16. 大気汚染に影響する気象要因 (逆転層など) を概説できる。
17. 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定法を説明できる。
18. 室内環境と健康との関係について説明できる。
19. 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。
20. 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。
21. マニフェスト制度について説明できる。

授業形態

講義

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	熊谷 健	放射線、地球環境と生態系	非電離放射線 (紫外線、可視光線、赤外線)、地球環境問題	1, 2
第2回	熊谷 健	地球環境と生態系	生態系、化学物質の環境内動態、地球環境保全	3, 4, 5
第3回	熊谷 健	環境保全と法的規制	典型七公害、四大公害	6
第4回	熊谷 健	環境保全と法的規制	環境基本法、環境汚染防止関連法規	7, 8
第5回	熊谷 健	水環境	原水の種類と特徴、浄化法、塩素処理	9, 10
第6回	熊谷 健	水環境	水質基準項目 (測定法)	11
第7回	熊谷 健	水環境	下水処理、排水処理	12
第8回	熊谷 健	水環境	水質汚濁指標 (測定法)、富栄養化	13, 14
第9回	熊谷 健	大気環境	大気汚染物質 (発生源、推移、健康影響)	15
第10回	熊谷 健	大気環境	大気汚染物質 (測定法)、逆転層	15, 16
第11回	熊谷 健	室内環境	室内環境 (指標、測定法)	17
第12回	熊谷 健	室内環境	室内環境と健康	18
第13回	熊谷 健	廃棄物	廃棄物 (種類、処理方法)	19
第14回	熊谷 健	廃棄物	廃棄物処理 (問題点、対策)、マニフェスト制度	20, 21
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験で評価する。

教科書

『健康と環境 スタンダード薬学シリーズⅡ 5』 (東京化学同人)

参考書

『考える衛生薬学』 (廣川書店)

準備学習 (予習)・復習

予習：講義予定の教科書の範囲を通読し、概要を把握する (1時間程度)。

復習：教科書、配付資料、板書内容等を用いてノート整理を行い、講義内容の理解に努める (1時間程度)。

オフィスアワー

教育研究棟（ウェリタス）8階・環境衛生学教室 スタッフ室1 毎週月曜日 午後4時30分～午後6時

担当者 中川 哲人 (所属: 生体膜情報学教室)

一般目標 (GIO)

複雑なメカニズムから成り立つ生物を対象とする生命科学においては不確定要素が大きく、表出する結果は多様である。生命科学における多様性を科学的・客観的に取り扱うために必要な統計学の基本的知識と実践力を身につける。

到達目標 (SBOs)

1. 代表的な研究デザイン (観察的研究・調査、実験的研究) の特色を説明できる。
2. 母集団と標本の関係について説明できる。
3. 測定尺度 (間隔・比率尺度、順序尺度、分類尺度) について説明できる。
4. 代表的な統計量 (平均値と標準偏差、中央値と四分位値など) を求めることができる。
5. 正規分布の特徴を説明できる。
6. 信頼区間と有意水準について説明できる。
7. 帰無仮説の概念について説明でき、実際に仮説を立てることができる。
8. データ形式からパラメトリック法とノンパラメトリック法のどちらを適用すべきか判別できる。
9. 適切な検定法を選択することができる。
10. 関連二群の平均値の差の検定について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。
11. 独立二群の平均値の差の検定について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。
12. 独立多群の平均値の差の検定について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。
13. 関連多群の平均値の差の検定について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。
14. 主な多重比較検定法の概要を説明できる。
15. 計数値の検定について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。
16. 相関と回帰について適用できるデータの特性を説明し、実施できる。
17. 主な多変量解析の概要を説明できる。
18. 基本的な生存時間解析法について説明し、実施できる。
19. 主なバイアスの特徴とその対策法を説明できる。
20. 統計処理するに当たり注意すべきことを説明できる。

授業形態

講義

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	中川 哲人	生命科学と統計	生物学における統計学的重要性、科学的研究法と実験デザイン	1, 2
第2回	中川 哲人	数学的基礎	データの分布と基礎統計量	3, 4
第3回	中川 哲人	数学的基礎	正規分布とt-分布	5
第4回	中川 哲人	数学的基礎	推定と検定	6, 7
第5回	中川 哲人	二群の差の比較	関連二群の差の検定 (一標本 t-検定、Wilcoxon 検定)	8, 9, 10
第6回	中川 哲人	二群の差の比較	独立二群の差の検定 (二標本 t-検定、Mann-Whitney 検定)	8, 9, 11
第7回	中川 哲人	多群の差の比較	独立多群の差の検定 (一元配置分散分析、Kruskal-Wallis 検定)	8, 9, 12
第8回	中川 哲人	多群の差の比較	関連多群の差の検定 (二元配置分散分析、Friedman 検定)、 多重比較検定 (Dunnett法、Williams法、Tukey法)	8, 9, 13, 14
第9回	中川 哲人	計数値の解析	1 要因分類の計数値解析 (比率の検定、適合度検定)	8, 9, 15
第10回	中川 哲人	計数値の解析	2 要因分類の計数値解析 (直接確率法、独立性検定、リスク比とオッズ比)	8, 9, 15
第11回	中川 哲人	相関と回帰	相関係数 (Pearsonの相関係数、Spearmanの順位相関係数)、直線回帰	8, 9, 16
第12回	中川 哲人	相関と回帰	多変量解析の意義、主な多変量解析法	17
第13回	中川 哲人	生存時間解析	Kaplan-Meier法、生存時間平均値と生存時間中央値	18
第14回	中川 哲人	統計を利用する上での注意事項	相関と因果、擬似相関、バイアスとその対策、統計的有意と実質的有意	19, 20
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験 (86%) および課題 (14%) により評価する。

教科書

プリントを配布する。

参考書

『バイオサイエンスの統計学』 (南江堂)、『医学統計学』 (南江堂)

準備学習(予習)・復習

統計は数学ではありませんが、その成立からして実学であり、今や実社会において欠くことのできない学問です。この授業では、数学ではなく実学としての側面に重きを置き、皆さんが研究室に配属された際に役に立つ様な研究データの扱い方について学んでもらいます。

【準備学習】 授業で使うスライドを印刷した物をあらかじめ配布しますので、まずは指示された次回の講義分について一通り目を通して下さい。それから、1年次の「数学Ⅱ」の該当する部分を復習して下さい。30分程かけて内容の理解に努めて下さい。当科目では数学的基礎については1年次の「数学Ⅱ」に詳しいので簡単に触れるに留め、データに適した統計法の選び方などの実践的な内容に重点を置きます。

【復習】 授業内容を一通り復習した後、毎回配布する課題プリントを自力で解いて提出して下さい。復習が重要ですので1時間程度は時間を確保して下さい。課題プリントは回収後に採点されて成績に反映されます。採点後には返却し適宜解説を行います。

オフィスアワー

教育研究棟(ウェリタス)5階・生体膜情報学教室 スタッフ質 月曜日 午後4時20分～6時

担当者 東 秀好 (所属：生体膜情報学教室)、顧 建国 (所属：細胞制御学教室)
 細野 雅祐 (所属：分子認識学教室)、井ノ口 仁一 (所属：機能病態分子学教室)

一般目標 (GIO)

生体膜や細胞内小器官の機能の理解を基礎にして、細胞外からの情報の受容、細胞内への情報の変換についての知識を習得し、創薬への考え方を身につける。

到達目標 (SBOs)

1. 脂質の水中における分子集合構造 (膜、ミセル、膜タンパク質など) について説明できる。
2. 細胞膜の構造と性質について説明できる。
3. 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。
4. 細胞内小器官 (核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど) の構造と機能を説明できる。
5. タンパク質の細胞内小器官へのターゲティング機構について説明できる。
6. 細胞内小胞輸送の機構について説明できる。
7. 糖鎖および多糖類の構造と役割を概説できる。
8. 糖 (鎖) を認識するタンパク質の具体例を挙げ、説明できる。
9. 糖鎖を介した情報伝達について説明できる。
10. 糖とタンパク質の代表的な結合様式と生合成経路を示すことができる。
11. レクチンの機能について概説できる。
12. Gタンパク質共役受容体 (GPCR) の情報伝達の仕組みを概説できる。
13. いくつかのGPCRの機能を説明できる。
14. 複数のGPCRからの情報の処理を生体はどのように行っているか概説できる。
15. GPCRのリガンドやリガンド以外からの入力情報について概説できる。
16. 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。
17. 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。
18. 細胞-基質間接着の仕組みとインテグリンの役割を概説できる。
19. 細胞移動の仕組みについて説明できる。

授業形態

講義

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	井ノ口 仁一	生体膜の機能	生体膜の分子構成	1, 2, 3
第2回	井ノ口 仁一	生体膜の機能	細胞内小器官とその機能	4
第3回	井ノ口 仁一	生体膜の機能	小胞輸送とタンパク質のターゲティング	4, 5, 6
第4回	井ノ口 仁一	生体膜の機能	小胞輸送とタンパク質のターゲティング	4, 5, 6
第5回	細野 雅祐	糖結合タンパク質とその機能	細胞膜表面糖鎖の構造と機能	7, 9
第6回	細野 雅祐	糖結合タンパク質とその機能	糖タンパク質糖鎖の生合成	10
第7回	細野 雅祐	糖結合タンパク質とその機能	レクチンの構造と機能	8, 11
第8回	東 秀好	Gタンパク質共役型受容体	Gタンパク質共役型受容体の情報伝達の仕組み	12, 13, 14
第9回	東 秀好	Gタンパク質共役型受容体	Gタンパク質共役型受容体各論	12, 13, 14
第10回	東 秀好	Gタンパク質共役型受容体	Gタンパク質共役型受容体と創薬	12, 13, 14, 15
第11回	顧 建国	細胞接着とそのシグナル	細胞-細胞間接着装置	16, 19
第12回	顧 建国	細胞接着とそのシグナル	細胞接着と上皮間葉転換 (EMT)	16, 17
第13回	顧 建国	細胞接着とそのシグナル	がんにおけるEMTとその制御	17, 18
第14回	顧 建国	細胞接着とそのシグナル	細胞接着とがん治療	16, 17, 18, 19
第15回			まとめ	

成績評価方法

レポート50%、小テスト50%

教科書

プリントによる

参考書

- 『細胞の分子生物学』 アルバーツ 他 著、中村桂子・松原謙一 監訳 (ニュートンプレス)
 『Essential 細胞生物学』 アルバーツ 他 著、中村桂子・松原謙一 監訳 (南江堂)
 『ヴォート基礎生化学Ⅳ』 Donald Voet 他 著、田宮信雄 他監訳 (東京化学同人)

準備学習(予習)・復習

細胞生物学における最新のトピックを各教官がピックアップして解説します。これから皆さんが研究者としての道を進むにあたっての参考になればと思っています。何か一つでも興味を持って研究の楽しさを感じてもらえれば幸いです。各項目に書かれている内容(特にキーワード)を参考書や配布プリントで60分程度予習することが大切です。また、前の週の講義の内容を説明できるように復習(60分程度)するのも重要です。

オフィスアワー

時間は教官ごとに確認のこと。

教育研究棟(ウェリタス) 5階・生体膜情報学教授室(東)、細胞制御学教授室(顧)、分子認識学教授室(細野)、生体膜情報学教授室(井ノ口)

井ノ口：月曜日 午後4時30分～6時

顧：火曜日 午後4時30分～6時

東：火曜日 午後3時30分～5時

細野：火曜日 午後4時30分～6時

最新生命科学概論

3年次 後期 必修 1単位

担当者 東 秀好 (所属: 生体膜情報学教室)、井ノ口 仁一 (所属: 機能病態分子学教室)
顧 建国 (所属: 細胞制御学教室)

一般目標 (GIO)

最新の生体膜研究、特に糖鎖生命科学の動向を学び、理解できる能力を養う。

到達目標 (SBOs)

1. タンパク質に糖鎖が付加されることの意義を説明できる。
2. 糖鎖による接着分子の機能制御を理解できる。
3. がんの浸潤・転移における糖鎖役割を理解できる。
4. 先天性疾患と糖鎖の関わりを理解できる。
5. 再生医学上の最新話題を理解できる。
6. 生体膜とマイクロドメインを概説できる。
7. マイクロドメインを介した情報伝達を説明できる。
8. マイクロドメイン病と糖脂質について概説できる。
9. 糖尿病研究の最新の研究を理解できる。
10. がん研究の最新の研究を理解できる。
11. 神経可塑性と記憶について概説できる。
12. 糖鎖による神経機能の調節を説明できる。
13. ウイルス感染における糖鎖の役割を理解できる。
14. 細菌感染における糖鎖の役割を理解できる。

授業形態

講義

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	顧 建国	糖タンパク質の糖鎖機能	タンパク質に糖鎖が付加されることの意義	1
第2回	顧 建国	糖タンパク質の糖鎖機能	接着分子と糖鎖の機能	2
第3回	顧 建国	糖タンパク質の糖鎖機能	糖鎖とがん	3
第4回	顧 建国	糖タンパク質の糖鎖機能	糖鎖と先天性疾患	4
第5回	顧 建国	医学研究最前線	再生医学	5
第6回	井ノ口 仁一	細胞膜マイクロドメインと糖脂質	生体膜とマイクロドメイン	6
第7回	井ノ口 仁一	細胞膜マイクロドメインと糖脂質	マイクロドメインを介した情報伝達	7
第8回	井ノ口 仁一	細胞膜マイクロドメインと糖脂質	マイクロドメイン病と糖脂質	8
第9回	井ノ口 仁一	最新医学研究	糖尿病研究の最前線	9
第10回	井ノ口 仁一	最新医学研究	がん研究の最前線	10
第11回	東 秀好	神経可塑性と糖鎖	神経可塑性と記憶	11
第12回	東 秀好	神経可塑性と糖鎖	糖鎖による神経機能の調節	12
第13回	東 秀好	感染症における糖鎖の役割	ウイルス感染と糖鎖	13
第14回	東 秀好	感染症における糖鎖の役割	細菌感染と糖鎖	14
第15回			まとめ	

成績評価方法

レポート50%、小テスト50%

教科書

プリントによる。

参考書

『細胞の分子生物学』 アルバーツ 他 著、中村桂子・松原謙一 監訳 (ニュートンプレス)
『Essential 細胞生物学』 アルバーツ 他 著、中村桂子・松原謙一 監訳 (南江堂)
『ヴォート基礎生化学Ⅳ』 Donald Voet 他 著、田宮信雄 他監訳 (東京化学同人)

準備学習(予習)・復習

日頃から生命科学についてのマスコミなどの情報に注意して、意識を高めておくこと。
上記の授業到達目標について、特に興味ある分野の最新情報入手し、あらかじめ疑問点を認識して授業に出席すること。授業では、活発に質疑応答に参加してほしい。各項目に書かれている内容(特にキーワード)を参考書や配布プリントで60分程度の予習するのが必要です。また、前の週の講義の内容を説明できるように60分程度の復習するのも重要です。

オフィスアワー

井ノ口：教育研究棟 5 階・機能病態分子学教室 月曜日 午後 4 時 30 分～6 時
顧 　　：教育研究棟 5 階・細胞制御学教授室 火曜日 午後 4 時 30 分～6 時
東 　　：教育研究棟 5 階・生体膜情報学教授室 火曜日 午後 3 時 30 分～5 時

担当者 溝口 広一（所属：機能形態学教室）

一般目標 (GIO)

薬理学の基礎理論を習得するとともに、代表的薬物の基礎知識（薬理作用、作用機序、副作用など）を習得する。

到達目標 (SBOs)

1. 薬物の用量と作用の関係の説明ができる。
2. 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。
3. 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。
4. 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。
5. 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。
6. 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。
7. 代表的な中枢神経疾患（てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。
8. 代表的な精神疾患（統合失調症、うつ病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。
9. 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げるができる。
10. てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
11. パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
12. 代表的な精神疾患を挙げるができる。
13. 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
14. うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
15. 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症。
16. 癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。

授業形態

講義

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	溝口 広一	全身麻酔薬	麻酔深度、全身麻酔薬の分類、吸入麻酔薬	1, 2, 4
第2回	溝口 広一	全身麻酔薬 催眠薬	静脈麻酔薬、バランス麻酔、麻酔前投薬 睡眠、GABA _A 受容体	1, 2, 4, 5
第3回	溝口 広一	催眠薬	ベンゾジアゼピン系催眠薬、バルビツレート系催眠薬、その他の催眠薬	1, 2, 3, 5, 15
第4回	溝口 広一	催眠薬 抗てんかん薬	アルコール 中枢興奮薬（痙攣薬）、てんかん	1, 2, 3, 7, 9, 10, 15
第5回	溝口 広一	抗てんかん薬	抗てんかん薬、中枢性筋弛緩薬	1, 2, 7, 9, 10
第6回	溝口 広一	抗不安薬	神経症、ベンゾジアゼピン系抗不安薬、セロトニン系抗不安薬	1, 2, 3, 8, 12, 15
第7回	溝口 広一	抗うつ薬	うつ病、三環系抗うつ薬、四環系抗うつ薬	1, 2, 8, 12, 14
第8回	溝口 広一	抗うつ薬	SSRI、SNRI、NaSSA、抗躁薬	1, 2, 8, 12, 14
第9回	溝口 広一	抗パーキンソン病薬	パーキンソン病、ドパミン作用薬	1, 2, 7, 9, 11
第10回	溝口 広一	抗パーキンソン病薬 抗精神病薬	D ₂ 作動薬、中枢性抗コリン薬 統合失調症	1, 2, 7, 8, 9, 11, 12, 13
第11回	溝口 広一	抗精神病薬	定型抗精神病薬、非定型抗精神病薬	1, 2, 8, 12, 13
第12回	溝口 広一	麻薬性鎮痛薬	痛覚伝導路、オピオイド受容体、内因性疼痛制御機構	1, 2
第13回	溝口 広一	麻薬性鎮痛薬	モルヒネの薬理作用	1, 2, 3, 6, 15, 16
第14回	溝口 広一	麻薬性鎮痛薬	麻薬性鎮痛薬、麻薬拮抗性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬、麻薬拮抗薬、鎮痛補助薬、オピオイドローテーション	1, 2, 3, 6, 15, 16
第15回			試験	

成績評価方法

試験の結果のみで評価する。

教科書

『新薬理学テキスト』（廣川書店）

参考書

『機能形態学』（南江堂）

準備学習(予習)・復習

予習：1年後期開講の「生理学Ⅰ」は本科目の基礎となる科目である。本科目の予習として、「生理学Ⅰ」の内容を復習すること(30分程度)。
復習：毎回必ず講義内容を復習すること(1時間30分程)。

オフィスアワー

教育研究棟7階・機能形態学教室 教授室 月曜日 午後4時半～6時半

担当者 八百板 富紀枝 (所属：薬理学教室)

一般目標 (GIO)

呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系および代謝系に作用する薬物に関する基本的知識 (薬理作用、作用機序および副作用など) を習得する。

到達目標 (SBOs)

1. 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。
2. 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。
3. 代表的な排尿障害・頻尿治療薬を挙げ、作用機序について説明できる。
4. 代表的な勃起機能障害改善薬を挙げ、作用機序および副作用について説明できる。
5. 代表的な子宮収縮・弛緩薬を挙げ、作用機序および臨床応用について説明できる。
6. ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。
7. 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。
8. 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。
9. 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。
10. 代表的な脂質異常症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。
11. 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。
12. カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。
13. 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。

授業形態

講義

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	八百板 富紀枝	呼吸器系に作用する薬	気管支喘息治療薬①	1, 13
第2回	八百板 富紀枝	呼吸器系に作用する薬	気管支喘息治療薬②	1, 13
第3回	八百板 富紀枝	呼吸器系に作用する薬 泌尿器・生殖器系に作用する薬	気管支喘息治療薬③ 利尿薬①	1, 2, 13
第4回	八百板 富紀枝	泌尿器・生殖器系に作用する薬	利尿薬②	2, 13
第5回	八百板 富紀枝	泌尿器・生殖器系に作用する薬	利尿薬③ 排尿障害 (排尿困難、尿失禁、頻尿) に使用する薬物 生殖器系に作用する薬①	2, 3, 4, 13
第6回	八百板 富紀枝	泌尿器・生殖器系に作用する薬 内分泌・代謝系に作用する薬	生殖器系に作用する薬② 視床下部ホルモンとその関連薬	5, 6, 13
第7回	八百板 富紀枝	内分泌・代謝系に作用する薬	脳下垂体ホルモンとその関連薬 性ホルモンとその関連薬①	6, 8, 13
第8回	八百板 富紀枝	内分泌・代謝系に作用する薬	性ホルモンとその関連薬②	6, 8, 13
第9回	八百板 富紀枝	内分泌・代謝系に作用する薬	性ホルモンとその関連薬③ 甲状腺ホルモンとその関連薬 カルシウム調節ホルモンと骨粗鬆症治療薬①	6, 8, 12, 13
第10回	八百板 富紀枝	内分泌・代謝系に作用する薬	カルシウム調節ホルモンと骨粗鬆症治療薬② 副腎皮質ホルモンとその関連薬①	6, 7, 12, 13
第11回	八百板 富紀枝	内分泌・代謝系に作用する薬	副腎皮質ホルモンとその関連薬② 睪ホルモンと糖尿病治療薬①	6, 7, 9, 13
第12回	八百板 富紀枝	内分泌・代謝系に作用する薬	睪ホルモンと糖尿病治療薬②	6, 9, 13
第13回	八百板 富紀枝	内分泌・代謝系に作用する薬	高尿酸血症・痛風治療薬 脂質異常症治療薬①	10, 11, 13
第14回	八百板 富紀枝	内分泌・代謝系に作用する薬	脂質異常症治療薬②	10, 13
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験のみで評価する。

教科書

『新薬理学テキスト〔第3版〕』 (廣川書店)

参考書

『薬がみえる vol.1～3』 (メディックメディア)

準備学習(予習)・復習

正常な状態を逸脱したときが「病気」であり、その病的状態を正常に近づけるのが「薬」である。さらに、薬物を投与したときに得られる「生体反応(薬理作用)」は同じであっても、その「作用機序」は薬によって異なる。従って、「正常→病気→薬物→正常」このような関連性を常に意識し、予習・復習を行うことで、薬理作用、作用機序および副作用などについて理解を深めてもらいたい。

- ・具体的に予習では、薬理学の教科書や内容が関連する科目で使用した教科書や資料等を読み、基礎知識の確認や不明な用語は調べておくこと(30分から60分程度)。
 - ・復習では、授業時に配布するプリントを基にして内容の理解に努めること(60分程度)。
 - ・14回の講義を通して、それぞれに何らかの関連性がある。以前の部分の知識があるものとして次の講義が進むので、欠席すると支障が出てくる。従って、理由もなく欠席をしないこと。
- 内容が関連する科目：生理学、生化学、薬理学、疾病と治療など。

オフィスアワー

教育研究棟(ウェリタス)7階・薬理学 スタッフ室1 月曜日 午後4時から6時

担当者 中川西 修 (所属: 薬理学教室)

一般目標 (GIO)

血液系疾患、免疫・アレルギー疾患、抗炎症薬、感覚器系、皮膚疾患、口腔系疾患に作用する薬物の薬理作用、作用機序、副作用などを習得する。

到達目標 (SBOs)

1. 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。
2. 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。
3. 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。
4. 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
5. 播種性血管内凝固症候群 (DIC) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
6. 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
7. 自己免疫疾患 (全身性エリテマトーデスなど) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
8. 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
9. 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。
10. アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。
11. 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。
12. 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
13. 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
14. アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
15. 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
16. 以下の疾患の治療薬を挙げ、作用機序を説明することができる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症。
17. 口腔系疾患治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。

授業形態

講義

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	中川西 修	血液系疾患治療薬	貧血治療薬	3, 4
第2回	中川西 修	血液系疾患治療薬	貧血治療薬、白血球減少症治療薬	3, 4
第3回	中川西 修	血液系疾患治療薬	抗血小板薬① (トロンボキサランA2合成阻害薬、アデニル酸シクラーゼ活性化薬)	2
第4回	中川西 修	血液系疾患治療薬	抗血小板薬② (ホスホジエステラーゼ阻害薬、セロトニン5-HT ₂ 受容体遮断薬)	2
第5回	中川西 修	血液系疾患治療薬	抗凝固薬	2, 5
第6回	中川西 修	血液系疾患治療薬	血栓溶解薬、止血薬、血小板減少性紫斑病治療薬	1, 3
第7回	中川西 修	免疫・アレルギー疾患治療薬	免疫調整薬	6, 7, 8
第8回	中川西 修	免疫・アレルギー疾患治療薬	関節リウマチ治療薬	9
第9回	中川西 修	免疫・アレルギー疾患治療薬	抗ヒスタミン薬	10
第10回	中川西 修	免疫・アレルギー疾患治療薬	ケミカルメディエーター遊離阻害薬、抗トロンボキサランA2薬、抗ロイコトリエン薬	10
第11回	中川西 修	抗炎症薬	非ステロイド性抗炎症薬	11
第12回	中川西 修	抗炎症薬、感覚器系疾患治療薬	ステロイド性抗炎症薬、緑内障治療薬	11, 12
第13回	中川西 修	感覚器系疾患治療薬、皮膚疾患治療薬	白内障治療薬、加齢黄斑変性治療薬、アトピー性皮膚炎治療薬、皮膚真菌症治療薬	13, 14, 15
第14回	中川西 修	皮膚疾患治療薬、口腔系疾患治療薬	蕁麻疹治療薬、接触性皮膚炎及び光線過敏症に対する治療薬、口内炎治療薬、歯痛・歯周炎治療薬	16, 17
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験のみで評価する。

教科書

『新薬理学テキスト (第3版)』 佐藤進 編 (廣川書店)、配布プリント

参考書

『NEW 薬理学』 田中千賀子・加藤隆一 編 (南江堂)

準備学習 (予習)・復習

教科書等を用いて各項目に関連する生理機能並びに病態について予習しておくこと (1時間程度)。
講義内容を授業で配布するプリントやノートを参考に復習すること (1時間程度)。

オフィスアワー

教育研究棟（ウェリタス）7階・薬理学教室 スタッフ室1 月曜日 午後3時30分～5時

薬物動態学 I

3年次 前期 必修 1単位

担当者 森本 かおり (所属: 薬物動態学教室)

一般目標 (GIO)

薬物の生体内運命を理解するために、吸収、分布、代謝、排泄の過程に関する基本的知識とそれらを解析するための基本的技能を修得する。

到達目標 (SBOs)

1. 薬物の体内動態 (吸収、分布、代謝、排泄) と薬効発現の関わりについて説明できる。[E1-(1)-①-6]
2. 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。[E4-(1)-①-1]
3. 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。[E4-(1)-①-2]
4. 経口投与された薬物の吸収について説明できる。[E4-(1)-②-1]
5. 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。[E4-(1)-②-2]
6. 薬物の吸収に影響する因子 (薬物の物性、生理学的要因など) を列挙し、説明できる。[E4-(1)-②-3]
7. 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。[E4-(1)-②-4]
8. 初回通過効果について説明できる。[E4-(1)-②-5]
9. 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。[E4-(1)-③-1]
10. 薬物の組織移行性 (分布容積) と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。[E4-(1)-③-2]
11. 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。[E4-(1)-③-3]
12. 血液-脳関門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。[E4-(1)-③-4]
13. 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。[E4-(1)-③-5]
14. 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。[E4-(1)-③-6]
15. 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。[E4-(1)-④-1]
16. 薬物代謝の第 I 相反応 (酸化・還元・加水分解)、第 II 相反応 (抱合) について、例を挙げて説明できる。[E4-(1)-④-2]
17. 代表的な薬物代謝酵素 (分子種) により代謝される薬物を列挙できる。[E4-(1)-④-3]
18. プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。[E4-(1)-④-4]
19. 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。[E4-(1)-④-5]
20. 薬物の尿中排泄機構について説明できる。[E4-(1)-⑤-1]
21. 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。[E4-(1)-⑤-2]
22. 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。[E4-(1)-⑤-3]
23. 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。[E4-(1)-⑤-4]
24. 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。[E4-(1)-⑤-5]
25. 遺伝的要因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。[E3-(3)-①-3]
26. 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。[E3-(3)-②-1]
27. 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。[E3-(3)-②-2]
28. 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。[E3-(3)-③-1]
29. 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。[E3-(3)-④-2]

授業形態

講義

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	森本 かおり	薬物動態学概論	血中薬物濃度の規定要因としての吸収、分布、代謝、排泄について	1
第2回	森本 かおり	生体膜透過機構	生体膜の構造と物質の膜透過機構、特にトランスポーターを介する能動輸送について	2, 3
第3回	森本 かおり	薬物の吸収	消化管吸収に影響を及ぼす生理的要因・物理的要因	4, 6, 8
第4回	森本 かおり	薬物の吸収	消化管以外からの薬物吸収	5
第5回	森本 かおり	薬物の吸収	吸収過程の相互作用	7
第6回	森本 かおり	薬物の分布	組織移行性に影響する要因、血漿タンパク結合解析	9, 11, 14
第7回	森本 かおり	薬物の分布	分布容積、脳内移行・胎盤透過	10, 12, 13
第8回	森本 かおり	薬物の代謝	薬物の代謝様式、代謝酵素、特にシトクロム P450 について	15~17
第9回	森本 かおり	薬物の代謝	第 II 相反応、活性代謝物、プロドラッグ	16, 18
第10回	森本 かおり	薬物の代謝	酵素誘導及び酵素阻害	19
第11回	森本 かおり	薬物の排泄	薬物の腎排泄機構、腎排泄速度	20, 22
第12回	森本 かおり	薬物の排泄	腎クリアランス	21
第13回	森本 かおり	薬物の排泄	胆汁排泄、その他の排泄経路 (乳汁移行、唾液分泌等)	23, 24
第14回	森本 かおり	薬物動態の変動要因	病態、年齢、妊娠遺伝等の影響	25~29
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験で評価する。

教科書

『薬の生体内運命 改訂7版』 中島恵美 編集 (ネオメディカル)

参考書

『パザバ薬学演習シリーズ⑨ 生物薬剤学演習』 伊藤清美・荻原琢男・宮内正二 編集

準備学習(予習)・復習

予習の際、学習範囲の教科書を通読し、キーワードを抽出すること(1時間程度)。

毎回練習問題を配布するので、理解を深め知識を整理するため当日の復習時に解くこと(1時間程度)。

オフィスアワー

教育研究棟(ウェリタス)4階・薬物動態学教室 スタッフ室 月曜日 午後3時30分～5時

担当者 森本 かわり (所属:薬物動態学教室)

一般目標 (GIO)

薬効や副作用を体内の薬物動態から定量的に理解できるようになるために、薬物動態の理論的解析に関する基本的知識と技能を修得する。

到達目標 (SBOs)

- 線形コンパートメントモデルと関連する薬物動態パラメータ (全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など) の概念を説明できる。[E4-(2)-①-1]
- 線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる (急速静注・経口投与 [単回および反復投与]、定速静注)。(知識・技能) [E4-(2)-①-2]
- 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識・技能) [E4-(2)-①-3]
- モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。[E4-(2)-①-4]
- 組織クリアランス (肝、腎) および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。[E4-(2)-①-5]
- 薬物動態学—薬力学解析 (PK-PD解析) について概説できる。[E4-(2)-①-6]
- 治療薬物モニタリング (TDM) の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。[E4-(2)-②-1]
- TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。[E4-(2)-②-2]
- 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識・技能) [E4-(2)-②-3]
- ポピュレーションファーマコキネティクス概念と応用について概説できる。[E4-(2)-②-4]
- 製剤の特性 (適用部位、製剤からの薬物の放出性など) を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。[E5-(2)-③-1]

授業形態

講義

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	森本 かわり	薬物速度論概説	血中濃度と有効性・安全性	1~11
第2回	森本 かわり	線形1-コンパートメントモデル (静注)	消失速度定数、消失半減期	2, 9
第3回	森本 かわり	線形1-コンパートメントモデル (静注)	血中濃度時間曲線下面積、全身クリアランス	2, 9
第4回	森本 かわり	線形1-コンパートメントモデル (静注)	尿中排泄データの解析 (ログレートプロット、シグママイナスプロット)	2, 9
第5回	森本 かわり	線形1-コンパートメントモデル (静注)	静脈内定速注入 (点滴) 時の血中濃度解析	2, 9
第6回	森本 かわり	線形1-コンパートメントモデル (経口)	経口投与時の血中濃度解析	2, 9
第7回	森本 かわり	線形1-コンパートメントモデル (静注)	繰り返し静注および経口投与時の血中濃度解析ならびに蓄積率	2, 9
第8回	森本 かわり	線形2-コンパートメントモデル (静注)	線形2-コンパートメントモデルに従う薬物の血中濃度解析	2, 9
第9回	森本 かわり	生理学的薬物速度論	肝クリアランスと肝固有クリアランス	5, 9
第10回	森本 かわり	バイオアベイラビリティ	量的及び速度的バイオアベイラビリティ	5, 9, 11
第11回	森本 かわり	非線形体内動態	消失過程 (代謝・排泄)、血漿タンパク結合及び吸収過程の飽和による非線形	3, 9
第12回	森本 かわり	モーメント解析	モデルに依存しない速度論解析	4, 9
第13回	森本 かわり	TDM	血中薬物濃度モニタリング (TDM) ポピュレーションファーマコキネティクス	7, 8, 10
第14回	森本 かわり	まとめ	投与計画の実際	6, 10
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験で評価する。

教科書

『薬の生体内運命 改訂7版』 中島恵美 編集 (ネオメディカル)

参考書

『パザバ薬学演習シリーズ⑥ 薬物速度論演習』 灘井雅行・荻原琢男・林弥生 編集

準備学習 (予習)・復習

予習の際、学習範囲の教科書を通読し、キーワードを抽出すること (1時間程度)。
毎回練習問題を配布するので、理解を深め知識を整理するため当日の復習時に解くこと (1時間程度)。

オフィスアワー

教育研究棟 (ウェリタス) 4階・薬物動態学教室 スタッフ室 月曜日 午後3時30分~5時

担当者 伊藤 邦郎 (所属: 薬学教育センター)

一般目標 (GIO)

薬物と製剤材料の性質を理解し、応用するために、それらの物性に関する基本知識、および取り扱いに関する基本技能を修得する。

到達目標 (SBOs)

1. 粉体の性質について説明できる。
2. 結晶 (安定形および準安定系) や非結晶、無水物や水和物の性質について説明できる。
3. 固形材料の溶解現象 (溶解度、溶解平衡など) や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。
4. 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子 (pHや温度など) について説明できる。
5. 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。
6. 流動と変形 (レオロジー) について説明できる。
7. 高分子の構造と高分子溶液の性質 (粘度など) について説明できる。
8. 界面の性質 (界面張力、分配平衡、吸着など) や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。
9. 代表的な分散系 (分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など) を列挙し、その性質について説明できる。
10. 分散した粒子の安定性と分離現象 (沈降など) について説明できる。
11. 分散安定性を高める製剤的手法を列挙し、説明できる。
12. 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。
13. 薬物の安定性 (反応速度、複合反応など) や安定性に影響を及ぼす因子 (pH、温度など) について説明できる。
14. 薬物の安定性を高める代表的な製剤手法を列挙し、説明できる。

授業形態

講義

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	伊藤 邦郎	粉体の性質	粒子径、粒子径測定法	1
第2回	伊藤 邦郎	粉体の性質	粒度分布、充填性、ぬれ	1
第3回	伊藤 邦郎	粉体の性質	粒子内の分子配列	2
第4回	伊藤 邦郎	物質の溶解	物質の溶解	3, 4
第5回	伊藤 邦郎	物質の溶解	拡散と溶解速度式	3, 4
第6回	伊藤 邦郎	物質の溶解	溶解度に及ぼす影響 (酸、塩基、温度)	4, 5
第7回	伊藤 邦郎	物質の流動と変形	流動、レオロジー、チキントロピー	6
第8回	伊藤 邦郎	物質の流動と変形	粘弾性、レオロジーの測定	6
第9回	伊藤 邦郎	高分子の物性	高分子溶液の分類、性質	7, 12
第10回	伊藤 邦郎	分散系	界面 (表面) 張力、界面活性剤の種類	8
第11回	伊藤 邦郎	分散系	界面活性剤の性質	8
第12回	伊藤 邦郎	分散系	分散系、コロイド	9, 10
第13回	伊藤 邦郎	分散系	乳剤、懸濁剤	9, 10, 11
第14回	伊藤 邦郎	医薬品の安定性	医薬品の安定性、安定性に影響を及ぼす因子	12, 13, 14
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験で評価する。

教科書

『製剤化のサイエンス (改訂7版)』 (ネオメディカル)

参考書

なし

準備学習 (予習)・復習

本講義は、薬剤系教科の基礎となる科目です。理解を深めるために授業開始前までに教科書の該当箇所を目を通すこと。また授業終了後、配布プリントや練習問題を中心に復習を励行すること。予習復習は合わせ2時間程度を目安に行ってください。

オフィスアワー

教育研究棟9階・薬学教育センター 月曜日 16:00~18:00

担当者 我妻 恭行 (所属：製剤学教室)

一般目標 (GIO)

各種製剤の特性、製剤方法を理解するために、日本薬局方の通則および製剤試験法、代表的な製剤の特徴・特性、製剤化の方法・添加剤に関する基本的事項を修得する。また、薬物の投与形態や薬物体内動態の制御法などを工夫した薬物送達システム (Drug Delivery System : DDS) に関する基本的事項を修得する。

到達目標 (SBOs)

1. 日本薬局方の意義と構成について説明できる。
2. 日本薬局方通則および製剤総則について説明できる。
3. 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。
4. 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。
5. 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。
6. 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。
7. 錠剤の製法について説明できる。
8. 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。
9. 粘膜に適用する製剤 (点眼剤、吸入剤など) の種類とその特性について説明できる。
10. 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。
11. その他の製剤 (生薬関連製剤など) の種類と特性について説明できる。
12. 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。
13. DDSの概念と有用性について説明できる。
14. コントロールドリリースノ概要と意義について説明できる。
15. ターゲティングの概要と意義について説明できる。
16. 吸収改善の概要と意義について説明できる。
17. プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。

授業形態

講義、演習

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	我妻 恭行	製剤学総論(1)	製剤学の定義、剤形、日本薬局方の意義、日本薬局方通則(1)	1, 2
第2回	我妻 恭行	製剤学総論(2)	日本薬局方通則(2)、日本薬局方製剤総則	1, 2
第3回	我妻 恭行	代表的な製剤(1)	経口投与する製剤、口腔内に適用する製剤	3, 4
第4回	我妻 恭行	代表的な製剤(2)	内用剤の添加剤、製剤単位操作	5, 6
第5回	我妻 恭行	代表的な製剤(3)	製剤機械、錠剤の製法 (演習)	6, 7
第6回	我妻 恭行	代表的な製剤(4)	滅菌法・無菌操作法、注射剤(1)	4, 5, 8
第7回	我妻 恭行	代表的な製剤(5)	注射剤(2)、透析用剤、眼に適用する製剤	4, 5, 8, 9
第8回	我妻 恭行	代表的な製剤(6)	気管支・肺に適用する製剤、耳・鼻に適用する製剤、直腸・膣に適用する製剤	4, 5, 9
第9回	我妻 恭行	代表的な製剤(7)	皮膚に適用する製剤 (軟膏剤、クリーム剤、ゲル剤)	4, 5, 10
第10回	我妻 恭行	代表的な製剤(8)	皮膚に適用する製剤 (外用固形剤、外用液剤、スプレー剤、貼付剤)、生薬関連製剤	4, 5, 10, 11
第11回	我妻 恭行	製剤に関する試験法	製剤に関する試験法	12
第12回	我妻 恭行	Drug Delivery System (1)	Drug Delivery System 概論、コントロールドリリース (放出制御製剤)	13, 14
第13回	我妻 恭行	Drug Delivery System (2)	ターゲティング (標的指向型製剤)	15
第14回	我妻 恭行	Drug Delivery System (3)	薬物の体内への吸収改善技術、プロドラッグ	16, 17
第15回	我妻 恭行		試験	

成績評価方法

定期試験 (95%) および提出物 (5%) で評価する。

教科書

『製剤化のサイエンス 改定第8版』 寺田勝英・高山幸三 編 (ネオメディカル)

参考書

『第17改正日本薬局方解説書』

準備学習(予習)・復習

- ・本科目は、3年次前期で履修した製剤工学概論と密接に関連していますので、合わせて復習しておいてください。
- ・この教科では、教材として配布資料と教科書を使います。講義は、配布資料に沿ってスライドで説明しますので、講義中は講義内容を資料に書き加えていき、講義終了後に資料と教科書に関連付けながら復習をしてください (復習時間は1時間程度)。

オフィスアワー

教育研究棟（ウェリタス）4階・薬剤学教室 月曜日 16:00～18:00

疾病と治療 I

3年次 前期 必修 1単位

担当者 原 明義（所属：薬物治療学教室）
菅野 秀一（所属：薬物治療学教室）

一般目標 (GIO)

創薬研究者あるいは薬の専門家として、健康寿命の延伸と患者のQOL向上に貢献するために、代表的な疾病の病態、成因、症状、治療などについて基本的知識を習得する

到達目標 (SBOs)

1. 消化器疾患（胃食道逆流症、胃炎、消化性潰瘍、炎症性腸疾患、肝炎、肝硬変、胆石症、膵炎など）の病態と治療について説明できる。
2. 抗悪性腫瘍薬の薬理作用、機序、主な副作用および臨床適用について説明できる。
3. 悪性腫瘍の病態と治療について説明できる。
4. 内分泌疾患（甲状腺機能亢進症・低下症、副甲状腺機能亢進症・低下症、副腎機能異常症など）の病態と治療について説明できる。
5. 代謝疾患（糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症・痛風など）の病態と治療について説明できる。
6. 精神疾患（統合失調症、大うつ病性障害、双極性障害、神経症性障害、睡眠障害など）の病態と治療について説明できる。

授業形態

講義

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	原 明義	消化器疾患	胃食道逆流症、胃炎、消化性潰瘍	1
第2回	原 明義	消化器疾患	便秘、炎症性腸疾患 他	1
第3回	原 明義	消化器疾患	肝炎	1
第4回	原 明義	消化器疾患	肝硬変、胆石症、胆道炎、膵炎	1
第5回	菅野 秀一	抗悪性腫瘍薬	アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗癌性抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、白金製剤	2
第6回	菅野 秀一	抗悪性腫瘍薬	ホルモン薬、分子標的薬、モノクローナル抗体、チロシinkinase阻害薬、非特異的免疫賦活薬	2
第7回	菅野 秀一	悪性腫瘍の病態と治療	悪性腫瘍の疫学、リスクと予防要因、薬物治療、化学療法、消化器系癌、肺癌、泌尿・生殖器系癌、乳癌、脳腫瘍、抗悪性腫瘍薬による耐性、副作用の発現と対処法	3
第8回	原 明義	内分泌疾患	甲状腺機能亢進症・低下症	4
第9回	原 明義	内分泌疾患	副甲状腺機能亢進症・低下症、副腎機能異常症	4
第10回	原 明義	代謝疾患	糖尿病	5
第11回	原 明義	代謝疾患	脂質異常症、高尿酸血症・痛風	5
第12回	原 明義	精神疾患	統合失調症	6
第13回	原 明義	精神疾患	大うつ病性障害、双極性障害	6
第14回	原 明義	精神疾患	神経症性障害、睡眠障害	6
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験の成績で評価する。

教科書

講義プリントを配布する。

参考書

『Principal Pharmacotherapy』（ネオメディカル）
『今日の治療薬』（南江堂）

準備学習(予習)・復習

事前に該当する疾患と薬物に関する基本的内容について、1時間程度予習しておくこと。また、配布した講義プリントなどを参考にしながら、講義内容をポイントを中心に1～2時間整理・復習し、内容の理解に努めること。

オフィスアワー

原 明義：教育研究棟（ウエリタス）4階・薬物治療学教室 教授室 水曜日 15時～17時
菅野 秀一：教育研究棟（ウエリタス）4階・薬物治療学教室 スタッフ室 水曜日 15時～17時

疾病と治療Ⅱ

3年次 後期 必修 1単位

担当者 原明義 (所属:薬物治療学教室)

一般目標 (GIO)

創薬研究者あるいは薬の専門家として、健康寿命の延伸と患者のQOL向上に貢献するために、代表的な疾病の病態、成因、症状、治療などについて基本的知識を習得する。

到達目標 (SBOs)

1. 循環器系疾患 (高血圧、心不全、虚血性心疾患、不整脈、貧血など) の病態と治療について説明できる。
2. 呼吸器疾患 (気管支ぜん息、慢性閉塞性肺疾患、呼吸器感染症など) の病態と治療について説明できる。
3. 骨・関節疾患の病態と治療薬 (骨粗しょう症、関節リウマチ、変形性関節症、骨軟化症など) の病態と治療について説明できる。
4. 神経疾患 (脳血管障害、パーキンソン病、アルツハイマー病など) の病態と治療について説明できる。
5. アレルギー・免疫疾患 (アナフィラキシー、全身性エリテマトーデス、アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、じん麻疹など) の病態と治療について説明できる。

授業形態

講義

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	原明義	循環器系疾患	高血圧	1
第2回	原明義	循環器系疾患	心不全	1
第3回	原明義	循環器系疾患	虚血性心疾患	1
第4回	原明義	循環器系疾患	不整脈	1
第5回	原明義	循環器系疾患	貧血	1
第6回	原明義	呼吸器疾患	気管支ぜん息	2
第7回	原明義	呼吸器疾患	慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、インフルエンザ	2
第8回	原明義	骨・関節疾患	骨粗しょう症	3
第9回	原明義	骨・関節疾患	関節リウマチ、変形性関節症、骨軟化症	3
第10回	原明義	神経疾患	脳血管障害 (脳梗塞)	4
第11回	原明義	神経疾患	脳血管障害 (脳内出血、くも膜下出血)	4
第12回	原明義	神経疾患	パーキンソン病、アルツハイマー病	4
第13回	原明義	アレルギー・免疫疾患	アナフィラキシー、全身性エリテマトーデス	5
第14回	原明義	アレルギー・免疫疾患	アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、じん麻疹	5
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験の成績で評価する。

教科書

講義プリントを配布する。

参考書

『Principal Pharmacotherapy』 (ネオメディカル)
『今日の治療薬』 (南江堂)

準備学習 (予習)・復習

事前に該当する疾患と薬物に関する基本的内容について、1時間程度予習しておくこと。また、配布した講義プリントなどを参考にしながら、講義内容をポイントを中心に1~2時間整理・復習し、内容の理解に努めること。

オフィスアワー

教育研究棟 (ウェリタス) 4階・薬物治療学教室 教授室 水曜日 15時~17時

担当者 進藤 佐和子 (所属：環境衛生学教室)

一般目標 (GIO)

医薬品には主作用と副作用がある。副作用はその医薬品の毒性である。しかし、医薬品には毒を持って毒を制する面があり、毒性をゼロにするのは難しい。そこで、副作用としての毒性をできるだけ低く抑えながら主作用を大きく引き出した有効かつ安全性の高い医薬品を開発しなければならない。この講義では副作用としての医薬品の毒性とは何かを理解し、医薬品の安全性の確保に貢献する知識を習得することを目標とする。

到達目標 (SBOs)

1. 医薬品の主作用、副作用、毒性、有害反応について説明できる。
2. 代表的な副作用とその発現機構について説明できる。
3. 薬物の体内動態と薬効発現の関わりについて説明できる。
4. 薬物の吸収、代謝、排泄の過程での毒性発現において説明できる。
5. 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。
6. 薬効の個人差、生理的因子による変動機構について説明できる。
7. 代表的薬害とその発現機構について説明できる。
8. 依存性薬物とその区分、薬物依存性の治療法について説明できる。
9. 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。
10. 市販後の安全対策の制度と意義について説明できる。
11. 市販後の再調査、再評価の仕組み、副作用報告制度について説明できる。

授業形態

配布プリント及び板書を用いた講義である。

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	進藤 佐和子	毒性学概念	主作用と副作用、医薬品の有効性と毒性	1
第2回	進藤 佐和子	毒性学概念	医薬品の安全性確保、毒性の種類・分類	1
第3回	進藤 佐和子	医薬品副作用救済制度 医薬品安全対策	臨床試験、市販後再審査、安全情報等	9, 10, 11
第4回	進藤 佐和子	毒性発現・薬害例	ペニシリンショック、キノホルム、クロロキン	7
第5回	進藤 佐和子	毒性発現・薬害例	サリドマイド、薬害エイズ、ソリブジン	7
第6回	進藤 佐和子	毒性発現・薬害例	フィブリノゲン製剤、イレッサ、その他	7
第7回	進藤 佐和子	副作用機構	毒性発現様式、毒性発現部位、毒性発現に影響を与える因子 (性差、年齢等)	2, 3, 4, 5, 6
第8回	進藤 佐和子	副作用機構	毒性発現に影響を与える因子 (遺伝的要因)	2, 3, 4, 5, 6
第9回	進藤 佐和子	副作用機構	毒性発現に影響を与える因子 (疾患、病態、過量等)	2, 3, 4, 5, 6, 8
第10回	進藤 佐和子	副作用機構	医薬品有害相互作用、発生毒性	2, 3, 4, 5, 6
第11回	進藤 佐和子	副作用機構	薬物アレルギー	2, 3, 4, 5, 6
第12回	進藤 佐和子	器官毒性	肝毒性、腎毒性、消化器毒性	2, 3, 4, 5, 6
第13回	進藤 佐和子	器官毒性	皮膚毒性、循環器毒性、呼吸器毒性	2, 3, 4, 5, 6
第14回	進藤 佐和子	器官毒性	神経毒性、感覚器毒性、血液・造血器毒性	2, 3, 4, 5, 6
第15回	進藤 佐和子		試験	

成績評価方法

定期試験により評価する (100%)

教科書

『衛生薬学』 (江南堂)

参考書

『見てわかる薬学 図解 薬害・副作用学』 (南山堂)

『NEW 医薬品の安全性学』 (廣川書店)

準備学習 (予習)・復習

この科目は3年前期の「薬物動態学」、3年後期の「医薬品開発概論」、「非臨床試験概論」、「薬物管理概論」と密接に関連していますので、それら科目と切り離して学習するのではなく、各科目との関わりや重複する学習内容などにも注意を払い、整理して学習する様に心掛けてください。復習として配付資料と講義メモを確認し、キーワードを中心にノート整理を行ってください。(2時間程度)

オフィスアワー

教育研究棟8階・環境衛生学教室 在室時は可能な限りいつでも対応します。

非臨床試験概論

3年次 後期 必修 1単位

担当者 安藤 隆一郎 (所属: 実験動物センター)

一般目標 (GIO)

医薬品(バイオテクノロジー応用医薬品も含む)および医療用機器の安全性および有効性の評価は、最初にヒト以外の動物や細胞等を用い、その客観的な有害性や安全性および有効性の確認は、非臨床的に実施することが世界的に求められている。講義では、主に日本における医薬品・医療用機器のGLP(安全性試験の実施の基準に関する省令)試験と非GLP試験の各試験法について概説し、非臨床試験の基本的事項を学ぶ。

到達目標 (SBOs)

1. GLP(Good Laboratory Practice)の概略と意義ならびに薬事法との関連性について説明できる。
2. 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション(ICH)の目的、組織について概説できる。
3. 一般毒性試験の種類、各々の目的、方法、評価について説明できる。
4. 特殊毒性試験の種類、目的、方法、評価について説明できる。
5. 安全性薬理試験の種類、目的、方法、評価について説明できる。
6. 薬理試験の種類、目的、方法、評価について説明できる。
7. 薬物動態試験の種類、目的、方法、評価について説明できる。

授業形態

授業用に作成したプリント、パワーポイントを用いて講義を進めて行く。

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	安藤 隆一郎	はじめに	講義の目的と進め方	
第2回	安藤 隆一郎	非臨床試験とは	医薬品等の開発過程における非臨床試験の位置付けと関連規則等(GLP、ICHなど)	1, 2
第3回	安藤 隆一郎	一般毒性試験-1	単回投与(急性)毒性試験の目的、方法、評価	3
第4回	安藤 隆一郎	一般毒性試験-2	反復投与毒性試験の目的、方法、評価および治験(臨床試験)申請	3
第5回	安藤 隆一郎	特殊毒性試験-1	生殖・発生毒性試験の目的、方法、評価	4
第6回	安藤 隆一郎	特殊毒性試験-2	遺伝毒性・がん原生試験の目的、方法、評価	4
第7回	安藤 隆一郎	特殊毒性試験-3	皮膚感作性、皮膚光感作性試験の目的、方法、評価	4
第8回	安藤 隆一郎	特殊毒性試験-4	免疫毒性試験の目的、方法、評価	4
第9回	安藤 隆一郎	特殊毒性試験-5	局所刺激、依存性試験の目的、方法、評価	4
第10回	安藤 隆一郎	安全性薬理試験	安全性薬理試験の目的、方法、評価	5
第11回	安藤 隆一郎	薬理試験-1	一般薬理試験の目的、方法、評価	6
第12回	安藤 隆一郎	薬理試験-2	薬効薬理試験の目的、方法、評価	6
第13回	安藤 隆一郎	薬物動態試験	薬物動態試験の目的、方法、評価	7
第14回	安藤 隆一郎	まとめ	ヒトへの外挿について、講義のまとめ	
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験のみで評価する(100%)。

教科書

なし

参考書

『医薬品 非臨床試験ガイドライン解説』(2013、薬事日報社)

準備学習(予習)・復習

予習: 事前に配布されたプリントを中心にシラバスを参照の上、次回の講義項目を教科書等を参照の上、予習しておくこと(30分)。
復習: その日に受けた講義はその日のうちに整理ノートなどを作り、必ず復習しましょう。特に各試験法の目的、方法、評価を中心に学習すること(60分)。分からない事柄は図書館で調べ、それでも分からない時は担当教員に質問しましょう(教員を積極的に利用すること!)

オフィスアワー

実験動物センター(ウェリタス奥)1階・管理室 月~金 午後1時~6時

薬物管理概論

3年次 後期 必修 1単位

担当者 山本 文彦（所属：放射薬品学教室）

一般目標 (GIO)

法的規制のある化学物質及び医薬品の区分・定義・分類と化学的性質および取扱い・管理について学ぶ。

到達目標 (SBOs)

1. 毒物及び劇物取締法を概説できる。
2. 大麻取締法およびあへん法を概説できる。
3. 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。
4. 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。
5. 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。
6. 画像診断薬（造影剤、放射性医薬品など）について概説できる。
7. 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準（放射性医薬品基準など）および制度について概説できる。
8. 発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。
9. 代表的な中毒原因物質の解毒処理法を説明できる。
10. 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法など）を説明できる。
11. 重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。
12. 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。
13. 消防法に関する危険物の規制について概説できる。

授業形態

スライドおよび板書、配布資料中心の講義である。

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	山本 文彦	毒物・劇物	毒物及び劇物の区分、毒物・劇物の定義と分類	1
第2回	山本 文彦	毒物・劇物	毒物及び劇物取締法	1
第3回	山本 文彦	毒物・劇物	代表的な毒物・劇物による中毒症状及び処置、代表的な毒物・劇物の検出法	1, 9, 11
第4回	山本 文彦	大麻・あへん	大麻・あへんの定義、大麻・あへんの成分、大麻取締法、あへん法、大麻・あへん中毒時の検出法	2, 9
第5回	山本 文彦	麻薬	麻薬の定義・分類、麻薬、家庭麻薬、麻薬原料植物、麻薬及び向精神薬取締法（麻薬の取締と麻薬中毒患者に対する処置）	3
第6回	山本 文彦	麻薬	麻薬中毒、麻薬中毒時の検出法、濫用される麻薬（MDMA、LSD、フェンシクリジン、サイロシン、ケタミン等）	3, 9
第7回	山本 文彦	向精神薬	向精神薬の定義・分類、麻薬及び向精神薬取締法（向精神薬の取締）、向精神薬中毒時の検出法	3, 9
第8回	山本 文彦	覚せい剤	覚せい剤・覚せい剤原料の定義、覚せい剤取締法（覚せい剤・覚せい剤原料）、覚せい剤中毒時の検出法	4
第9回	山本 文彦	放射性医薬品	放射性医薬品に用いられる放射性同位元素とその化学的性質、局方収載放射性医薬品の適用	5, 6
第10回	山本 文彦	放射性医薬品	放射性医薬品の品質管理、放射線の安全管理（放射線障害防止法と医療法）	7
第11回	山本 文彦	発がん性物質	発がん性物質の分類（IARC分類、発癌メカニズムの相違による分類）、化審法・その他の規制法	8, 10
第12回	山本 文彦	催奇形性物質	催奇形性メカニズム、催奇形性を有する医薬品、ダイオキシン類の定義・分類と対策措置法	11
第13回	山本 文彦	医薬品の流通・管理と生活関連商品	医薬品の流通過程と品質管理、健康食品・サプリメント・化粧品などの分類と法的背景	12
第14回	山本 文彦	危険物	「消防法」に関する危険物の管理と規制	13
第15回			試験	

成績評価方法

定期試験のみ

教科書

なし。講義用資料を配布する。

参考書

『スタンダード薬学シリーズ9 「薬学と社会」』（東京化学同人）

『薬事衛生六法 2017』（薬事日報社）

準備学習(予習)・復習

前もって配布資料を配っていますので、毎週の授業前日に当該内容を目を通しておいてください（10分間）。時間をかけてじっくり予習する必要はありませんが、概要は把握する様にしてください。次の講義までに前回の講義内容をしっかり復習してください（70分間）。

オフィスアワー

教育研究棟（ウェリタス）6階・放射薬品学教室教授室 原則として講義日の午後4時～6時
会議や出張で不在の場合があるので、事前にアポイントメントをとることが望ましい。

実 習

分子生物学系実習

3年次 前期 必修 1単位

担当者 井ノ口 仁一・稲森 啓一郎・永福 正和・狩野 裕考（所属：機能病態分子学教室）
東 秀好・中川 哲人・黒田 喜幸（所属：生体膜情報学教室）
顧 建国・福田 友彦・伊左治 知弥（所属：細胞制御学教室）

一般目標 (GIO)

分子生物学的技術を薬学分野で応用できるようになるために、その基本的な技術を体験し、修得する事を目的とする。また、この実習で行うDNAの組換え技術がカルタヘナ法に基づいて実施されていることを理解し、この技術の安全性や倫理について学ぶ。適宜、実習内容に関するグループ討論を行い、議論する能力や倫理的な思考力を向上させる。

到達目標 (SBOs)

1. 組換えDNA技術の概要を説明できる。
2. 組換えDNAに関する法律を理解し守る。
3. DNAを制限酵素により切断し、電気泳動により分離できる。
4. 無菌操作を行える。
5. 微生物の培養を行える。
6. DNAをリガーゼにより連結できる。
7. 大腸菌コンピテント細胞を作製し、形質転換できる。
8. 外来遺伝子を大腸菌で発現させる方法を説明し、実践できる。
9. 大腸菌からプラスミドDNAを抽出する方法を理解し、実践できる。
10. タンパク質の定量ができる。
11. タンパク質をSDSポリアクリルアミド電気泳動で分離できる。
12. ウェスタンブロットングができる。
13. グループ討論が行える。

授業形態

講義、実習、グループ討論

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	井ノ口 仁一 稲森 啓一郎 永福 正和 狩野 裕考 東 秀好 中川 哲人 黒田 喜幸 顧 建国 福田 友彦 伊左治 知弥	制限酵素処理、アガロースゲル電気泳動によるDNAの精製	クローニング用プラスミドから制限酵素処理により蛍光タンパク質をコードするDNA断片を切り出した後、アガロースゲル電気泳動によりDNA断片を分離、精製する。	1, 2, 3, 13
第2回		ライゲーション、大腸菌のトランスフォーメーション	蛍光タンパク質をコードするDNA断片をタンパク質発現用プラスミドにライゲーションし、タンパク質発現用大腸菌をトランスフォーメーションする。	1, 2, 4, 5, 6, 7, 13
第3回		組換えタンパク質発現の確認、コロニーダイレクトPCRによるインサートの確認	蛍光タンパク質の発現を観察する。コロニーダイレクトPCRにより、蛍光タンパク質遺伝子の有無を確認する。	1, 2, 4, 5, 8, 13
第4回		大腸菌からのプラスミドの抽出、制限酵素処理によるインサートの確認	大腸菌からプラスミドを抽出して、蛍光タンパク質遺伝子の有無を確認する。	1, 9, 13
第5回		大腸菌でのタンパク質の大量発現	大腸菌で蛍光タンパク質の発現を誘導し、細胞溶解液を調製する。	2, 3, 4, 5, 8, 13
第6回		SDSポリアクリルアミドゲル電気泳動	細胞溶解液のタンパク質を定量し、電気泳動した後、クマシーブリアントブルーで染色する。	10, 11, 13
第7回		ウェスタンブロットング1	大腸菌で発現したタンパク質を電気泳動し、メンブレンフィルターに転写する。	12, 13
第8回		ウェスタンブロットング2	メンブレンフィルター上の蛍光タンパク質を抗体で検出する。	12, 13

成績評価方法

実習態度 (15%)、グループ討論 (15%)、レポート (70%) を総合的に評価する。

教科書

実習書を配布。

参考書

『遺伝子工学 - 基礎から応用まで -』 野島博 著 (東京化学同人)

準備学習(予習)・復習

「生化学 I ~ IV」、 「遺伝子工学」 で習うことを実際に体験してもらいます。次のキーワードをノートや教科書を見直して復習しておいて下さい (1 時間程度)。

制限酵素、リガーゼ、プラスミドベクター、コンピテント細胞、サブクローニング、アガロース電気泳動、pET システム、タンパク質定量、SDS ポリアクリルアミド電気泳動、ウェスタンブロットング。

オフィスアワー

教育研究棟（ウェリタス）5階・機能病態分子学教室・生体膜情報学教室・細胞制御学教室の各スタッフ室 月曜日 午後3時～5時半

薬理学系実習

3年次 前期 必修 1単位

担当者 溝口 広一・渡辺 千寿子・尾形 雅君・音羽 亮 (所属：機能形態学教室)
丹野 孝一・中川西 修・八百板 富紀枝・根本 互 (所属：薬理学教室)

一般目標 (GIO)

薬物の作用および作用機序に関する理解を深めるとともに、実験動物の取り扱い方、動物実験の基本的な技術およびデータの解析法を習得する。また、スモールグループディスカッションを行うことにより、議論する能力および問題解決能力の向上を目指す。

到達目標 (SBOs)

1. 動物実験における倫理について配慮する。(態度)
2. 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)
3. 実験動物での代表的な薬物投与法を実施できる。(技能)
4. 薬物の用量と作用の関係を説明できる。
5. アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。
6. 中枢神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)
7. 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)
8. 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)

授業形態

実習および視聴覚講義

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回		実習講義	実習内容、操作方法およびデータ解析の説明	1, 4, 5
第2回		自律神経作用薬および全身麻酔薬	・腺分泌におよぼす副交感神経作用薬の効果を観察する ・吸入麻酔薬と静脈麻酔薬の麻酔作用を比較する	1, 2, 3, 6, 7
第3回	丹野 孝一 溝口 広一 中川西 修	平滑筋収縮薬および弛緩薬	マグナス法により、アセチルコリンの腸管平滑筋収縮作用における用量-反応曲線に及ぼすアトロピンとパパベリンの作用を検討し、競合的拮抗と非競合的拮抗の特性を理解する	1, 4, 5, 7
第4回	渡辺 千寿子 八百板 富紀枝	鎮痛薬	・モルヒネの鎮痛作用とその作用機序をホルマリン法により検討する ・モルヒネの副作用である腸管運動抑制作用を検討する	1, 2, 3, 5, 6
第5回	尾形 雅君 根本 互	抗うつ薬および局所麻酔薬	・イミプラミンの抗うつ作用を強制水泳試験により評価する ・プロカインとリドカインの局所麻酔作用を比較する	1, 2, 3, 6, 8
第6回	音羽 亮	中枢興奮薬および抗てんかん薬	・ストリキニーネとピクロトキシンによるけいれんを比較する ・電撃けいれんに対する抗てんかん薬の効果を観察する	1, 2, 3, 6
第7回		循環器系作用薬および筋弛緩薬	循環器系作用薬および筋弛緩薬に関してビデオ映像を用いた視聴覚学習を行う	7, 8
第8回		スモールグループディスカッション	実習で修得した総合的な知識・技能に基づき、グループ討論を行う	

成績評価方法

実習態度50%、実習レポート30%およびスモールグループディスカッション20%とし評価する。

教科書

『新薬理学テキスト〔第3版〕』 (廣川書店)

参考書

配布プリント

準備学習(予習)・復習

予習：実習項目に関連した「薬理学」の講義内容を十分に復習する(1時間程度)。

復習：実習で行った実験内容を十分に理解し、項目に従いレポートにまとめる(1時間程)。

オフィスアワー

丹野 孝一	：教育研究棟 (ウエリタス) 7階・薬理学教室 教授室	日時に関係なく在室中は出来る限り対応
溝口 広一	：教育研究棟 (ウエリタス) 7階・機能形態学教室 教授室	月曜日 午後4時半～6時半
中川西 修	：教育研究棟 (ウエリタス) 7階・薬理学教室 スタッフ室1	月曜日 午後4時～5時
渡辺 千寿子	：教育研究棟 (ウエリタス) 7階・機能形態学教室 スタッフ室	月曜日 午後4時半～6時半
八百板 富紀枝	：教育研究棟 (ウエリタス) 7階・薬理学教室 スタッフ室1	月曜日 午後4時～6時
尾形 雅君	：教育研究棟 (ウエリタス) 7階・機能形態学教室 スタッフ室	月曜日 午後4時半～6時半
根本 互	：教育研究棟 (ウエリタス) 7階・薬理学教室 スタッフ室1	月曜日 午後4時～5時
音羽 亮	：教育研究棟 (ウエリタス) 7階・機能形態学教室 スタッフ室	月曜日 午後4時半～6時半

インターンシップ

3年次 前期 専門選択必修 1単位

担当者 東 秀好（所属：生体膜情報学教室）、町田 浩一（所属：薬学教育センター）
伊藤 邦郎（所属：薬学教育センター）

一般目標 (GIO)

インターンシップ経験を学生自身の職業適性やライフプランを考える好機とし、主体的な職業選択や高い職業意識の向上、勉学への一層の動機付けをはかり、さらに職場の実務にふれることで、現実的な行動力と創造力を持った学生を育てることを目的とする。

到達目標 (SBOs)

1. 挨拶などの基本的なマナーを修得する。
2. インターンシップに対する目的意識を持つ。
3. 守秘義務の遵守の認識を持つ。
4. 体験した業務を基にして、理想とする企業勤務者の姿について討議する。
5. 体験した業務をまとめたレポートを作成する。

授業形態

体験学習

授業内容 (項目・内容)

回	担当者	項目	内容	SBOs
第1回	東 秀好 町田 浩一 伊藤 邦郎	事前講習会	挨拶などの基本的なマナー インターンシップに対する目的意識 守秘義務の遵守	1, 2, 3
第2回		インターンシップ	企業で就業体験 (30時間以上)	4
第3回		事後講習会	企業での就業体験について学生がプレゼンテーション (パワーポイントを使用)	5

成績評価方法

レポート (60%) と発表内容 (40%) による事後報告を元に総合的に評価する。

教科書

なし。

参考書

なし。

準備学習 (予習)・復習

受け入れ先や関連した業種について、事前にホームページなどで調べておいて下さい (1時間程度)。
終了後は到達目標にあるように、体験した事柄をレポートにまとめて提出して下さい (2時間程度)。

オフィスアワー

質問等については書面にて教務課に提出すること。後日、講義の際にお答えいたします。

